

折紙探偵団新聞

猛暑に
負けるな
27号

折紙設計夜話 — 川畑文昭

第三回

内部の設計（図1における白抜き領域）における留意点の一つはその内部スペースを折り畳んだときにその外周辺をすべて一直線上に揃えることであり、もう一つは可能な限り設計基準線設計に影響を与えないように設計することです。この方法としては次の二つの方法が有力です。一つは一値分子化方法、二つ目は設計軌跡再延長法です。この二つの方法は当然併用使用可能ですが、理解しやすい様に、今回は一値分子化方法について述べ、設計軌跡再延長法については次回に説明したいとおもいます。

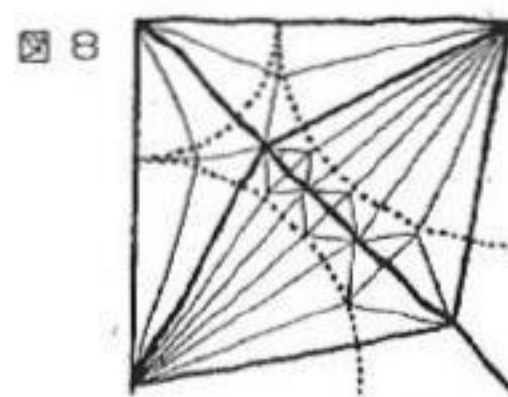
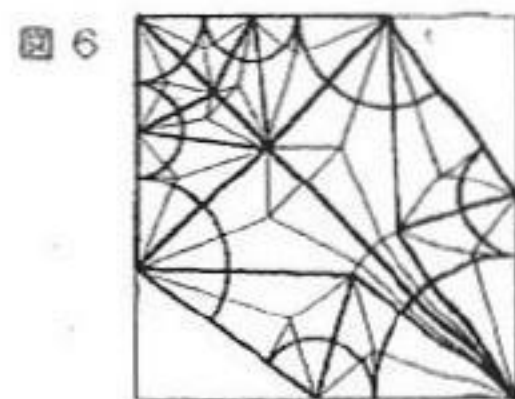
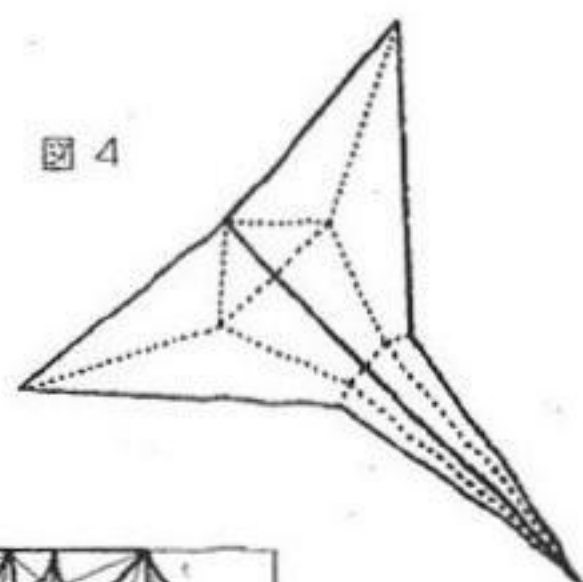
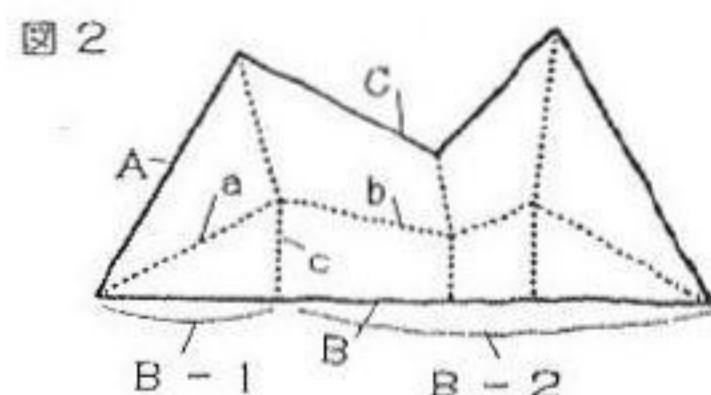
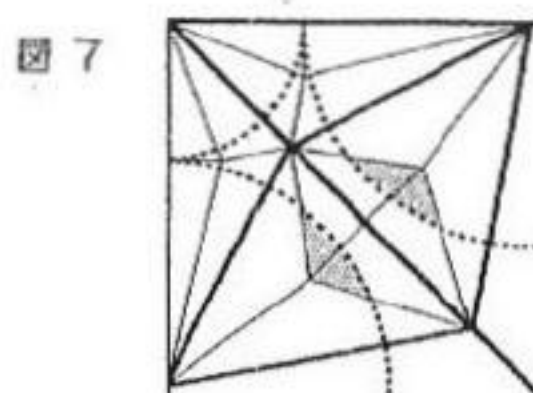
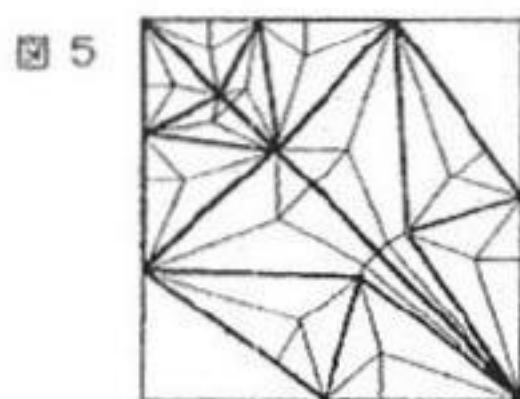
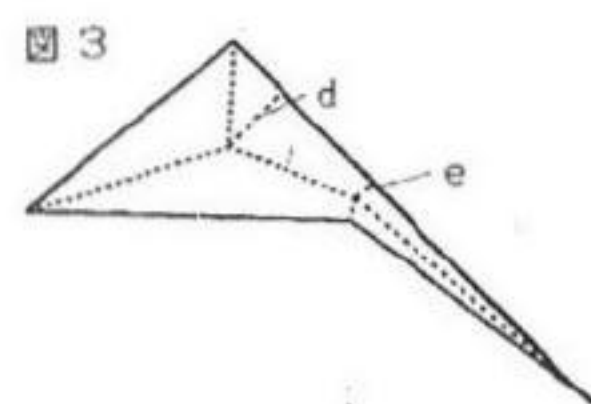
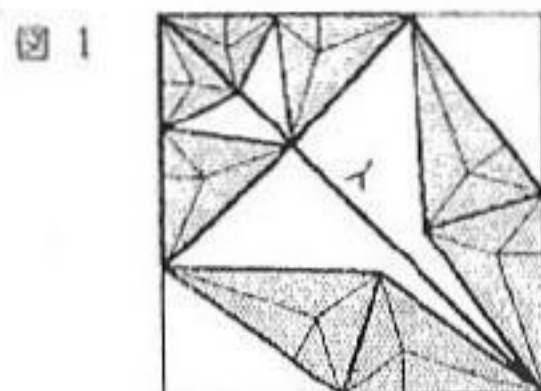
【一値分子化方法】

一値分子については、探偵団新聞11号、目黒俊幸氏による実用折紙設計方で述べられていますが、この方法は、内部スペース全体をそのまま一値分子化する方法です。

まず任意形状の一値分子化方法について考えてみましょう。一値分子の基本的な定義はすべての外周線が一直線上にそろえることです。これを言い替えば、一値分子を構成する折線はすべてそれぞれの辺同士がなす角度を2等分割する線の集合体で構成されるということです。図2を例にみますと、線aは辺Aと辺Bのなす角度の2等分線に、線bは辺Bと辺Cの2等分線になります。また線cも辺B-1と辺B-2との2等分線と見なすことができます。この原理に基づき、図1の内部スペースを例にとり、一値分子化してみます。まず内部スペースを中心線で分割しその半分を図3の様に一値分子化します。その結果、A部スペースとしては図4のようになります。ここで図3の線d、eに注目すると

これは中心線に集約される折線になるため、外部に影響を及ぼさないことがわかります。これが中心線にて分割し一値分子化することの理由の一つです。以上の様にして最終的に図5のような展開図を得ることができました。ただしこの設計方法は内部スペースの分割が設計形状に影響を及ぼす場合があるため、最終チェ

ックが必要となります。まず、図6に示すように最初に意図したカドの長さを円の領域で描いてみます。図6の例では各円の領域内にはカドの頂点を中心とした放射状の折り線しか存在せず、当初の目的のカドが折り出せることを示しています。しかし図7のような場合は内部スペース分割が設計に影響を及ぼすことを示したものであり、この場合は、図8の様な内部分割方法の修正などが必要となります。（あきらめて、そのまま造形でカバーする手法も筆者はよく使っていますが・・・？）（次回へ続く）



折紙博物誌

第二部

— 前川 淳 —

§ II 紙と鉄



「不切」
と
「正方形」

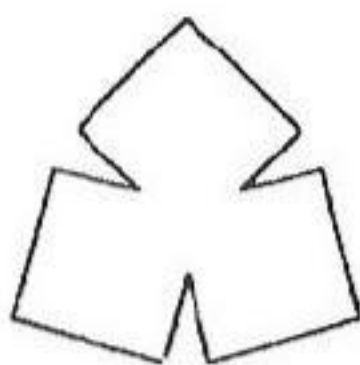


鉄の図の上に赤い円周と斜めの赤い線。鉄禁止。アメリカ折紙協会の会員が作った腕時計の文字盤のデザインである。おりがみ界で鉄は嫌われものだ。曰く「鉄を使えばどんなかたちだってできる」「切り紙になってしまう」「安易な逃げ道だ」等々。今回はこれを考える。

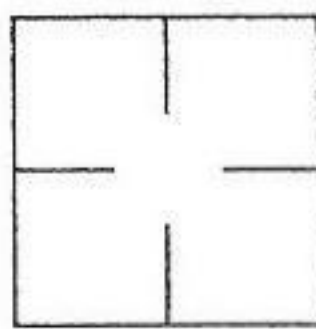
鉄を使うことと、前回テーマとした「紙のかたち」の間には深い関係がある。様々な比率の長方形や多角形の紙を前にすると、「規格化されたかたちではない」と感じると同時に、「切り出されたものだ」と感じる。例えば、「かや草」に掲載されている「蜘蛛」。この作品の第1工程は、特殊な12角形の用紙をつくることだ。「不切ではない」とするのが普通である。が、発想を変え、紙形をつくった時点スタートとすれば、1枚折り—「不切12角形1枚折り」である。同書の「蟹」はさらに興味深い。一見してその紙形は「切り込みをいれた正方形」以外の何ものでもないが、これも見方を変え、360度の「頂点」4個と90度の頂点12個を持った16角形になる。「不切16角形1枚折り」だ。虚心坦懐にみれば正方形も事情は同じである。市販の「おりがみ」ではない紙を使う時、我々はまず、そこから正方形を切り出さなければならない。大きなサイズの紙を用いる複雑な作品の場合、これは必須の作業だ。前回も述べたように、紙は長方形に漉かれ、その生まれ出たかたちは正方形ではない。「生まれ出たかたち」である長方形にしても結局は恣意的なものである。厳密に「不切」を言うのならば、かたちのない紙、すなわち「無限に大きい紙」を想定する「平織り」（平面結晶おりがみ）だけがその名に値することになるだろう。

「不切正方形1枚折り」において

「不切」と「正方形」は不可分に結びついている。そこには、正方形というかたちの持つ幾何的・文化的な特殊性を根拠にしたある種の美学がある。それは簡単には否定できない強い魅力を持っているが、一步退いて、次のように考えてみることも無駄ではない。正方形の特殊性を、「凸型の多角形」全般にまで拡張して、それらのかたちを用いるものを「不切折り」と見る、という考えかた。或いは、「蜘蛛」「蟹」などの「凸型」ではないかたちを許すと同時に鉄の使用を許容し、いかに鉄を使うか、どのような切り込みであればそれがおりがみと言えるのかを問題にする、という考えかた。わたしはこの後者の考えを支持したい。



蜘蛛



蟹



切り込みのルール



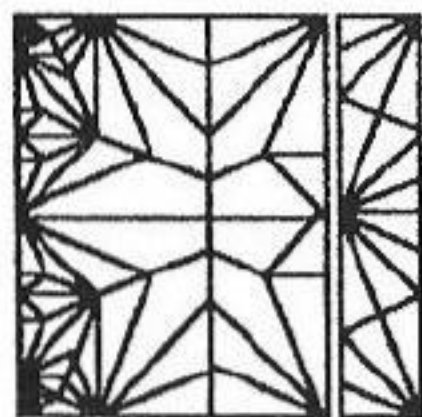
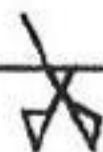
鉄の使用を許容しても様々なルールが考えられることは強調する必要がある。例えば、「秘傳千羽鶴折り」のルールは、「1枚の紙に切り屑を出さずに切り込みを入れる」というものだ。単に「1枚の紙」としているが、実質的には、「正方形を含む長方形の紙1枚」である。この制限が「千羽鶴折り」を高度な知的パズルとしている。同書は、切り込みを入れることがおりがみにとって「安易な逃げ道」ではないことを示している歴史的証拠である。

「切り離してはいけない」—これが「千羽鶴折り」のルールだが、切り離すことを考えると、また面白い視点が開ける。「複合おりがみ」を「切る」という視点で統一的に解釈することができるようになるのである。動物の前半身と後半身をそれぞれ1枚の正方形で折って複合するような手法を、「完全に切り離すという切り込み」をいれた「1対2の長方形1枚折り」と見る考えかたである。無駄な切り屑を出さない点では「千羽鶴折り」のルールにつながるものと言えるだろう。旧作になるが「鹿」のような「切り離し正方形1枚折り」はさらに分かりやすい例になっている。

最後に、切り込みをいれる場合のもっとも基本的なルールを考えてみたい。これは、切り紙の「切り」とおりがみの「切り」を分かちものは何かという問いに対する答でもある。上で触れたルール「切り屑を出さない」もあるが、わたしはここで「折るために切る」なる考えを提案したい。禅問答のようなのだが、そんなに難しいことではない。今わたしの頭の中にあるのは茶谷正洋氏の「折り紙建築」だ。カッターを駆使し、開くと立体がポップアップする「折り紙建築」。これをおりがみとは思わないひと多いだろうが、一連の作品の基本にあるのは、あくまでも「折る」ことだ。作品が立体化するのには「折り目」の機能であり、「切り込み」はそれに比して補助的である。

さらに大胆に言えば、「よい切り込みはある種の折り目である」とも考えられる。分離してしまった折り目。極限的な折り目。「折り」を「材料破壊」とみなす工学の視点を取れば、あながちこじつけではないだろう。

複合おりがみ



鹿

【絵本神名帳の神様たち】

高木智氏の『古典にみる折り紙』(NOA発行)に紹介されている宝暦7年(1757)刊『絵本神名帳』はおかしな本で、いろいろな「かみ」や「じん」などをつく名のものを神様に見立てて洒落のめしている。例えば「詩人」は「四角なる文字を好み」「五言七言絶句律などいへる託宣ありて唐人にちかし」などと、ちんぷんかんぷんな漢詩を作る人を冷やかしている。

高木氏の本に図が載せられているのは、その中の「鼻かみ」様で、折り鶴の背に乗っていらっしゃる。実は最近、この図を「盗作」してイメージ・キャラクターを作った御仁がおられる。「折り紙の神様」の図というのだが、ご本人そっくりな似顔絵になっているところがミソらしいので笑ってしまったが、個人を冷やかしてもはじまらないので、話題を折紙史に移そうと思う。

【鼻かみ様】

「つねに肌身をはなれず、至極重宝



なる神なり。折々は鶴にもかめにも形を現じ、童んべのもてあそびにもなり給ふ。又やわら紙とも申す。中の町へ出現のときは、かぶろのふところに宿る。又一名は延べ紙の、あからさまには人知らぬ事なり。」鼻紙で鶴などを折っていたことがわかる。仲之町(吉原)には「営業用」の上等な鼻紙(吉野紙・みす紙)のべ紙がたくさんあるので、禿(かむろ)は花魁からもらって折り紙に使っていた。古川柳に「千年かかってもかむろ折る気なり」とあるのは千年の暗示で、折り鶴を沢山作っていることを言っている。「千ほども折ったで禿上手なり」千羽鶴であろう。「おいらんの紙では鶴は折れいせん」というのは、本当に鶴が折れないというのではなくて、その紙の本来の使用法(團扇用)をわざとボ

カしてとぼけているのである。神名帳の「あからさまには人知らぬ事なり」というのと同じく裏を暗示しているわけだ。もっと下品に「あからさまに」表現した川柳に「老本ふくほどので禿つるを折り」がある。

【折紙様と切紙様】

「折紙」様の説明は「打ち物(刀剣類)小道具等(ツバや目貫など)を守る目利き(鑑定家)の家より出現し給ふ。諸人これを尊みて御初尾

おりがみ庵

ひとりごと
岡村昌夫

第15回

(お初穂=神様への奉納金)を定む」ついでに「切紙」様は「歌道には伝授にて、たやすからぬ事なり。又同名にて、昼夜飛行し諸用を弁じ給ふあり。これを手紙とも申して、箱にも入り、状差しにも宿る」

「折紙」とは横に二つに折った紙を意味し、また、そのような用紙に書く形式の公文書や進物の目録、書画骨董類の鑑定書などを指していたが、ここではもっぱら刀剣類の鑑定書の意味で使われている。権威のある鑑定家は高額な鑑定料を取ったのだから、「折紙付き」とはそのような「権威の裏付け」があることを意味した言葉だ。

「折紙」の折り目で切り離した細長い紙を「切紙」といい、その用紙に書いた歌道などの免許状(伝授書)や書状をも指したことも分かる。



【行成紙様】

平安時代の名筆家藤原行成(「こうぜい」と呼ばれる)の名を取った「行成紙(こうぜいがみ)」は、染め紙などに雲母で種々の模様を擦り付けた高価な紙である。書道の料紙以外にも、現代の千代紙のようにいろいろ使われている。「行成紙」様の説明はこうである。「いかにも上品にて、多く事をかなへ給ふ。模様いろいろ定めがたし。のし包みに

しては文箱に宿り、銭を包めば楊弓の弓矢神にも等し。香包みにする時は、神木伽羅なり。」

のし包み(熨斗)にしたものが神様の右半身に描かれている。前身ごろは香包みだろう。そうすると膝のあたりに三個描かれているメンコのようなのが銭包みだろう。この銭包みには興味がひかれた。色分けしてあるのは、インサイド・アウトなのだろうか。まさかソノベ・ユニットではあるまい。2枚で組み合わせたら銭が包めない。やはり普通の「糸入れ」とかメンコと呼ばれているもの(正方形を三等分して風車のように折る)だろうが、色分けを紙の裏表で出したとすれば驚くべきことであるが、江戸時代人の折紙

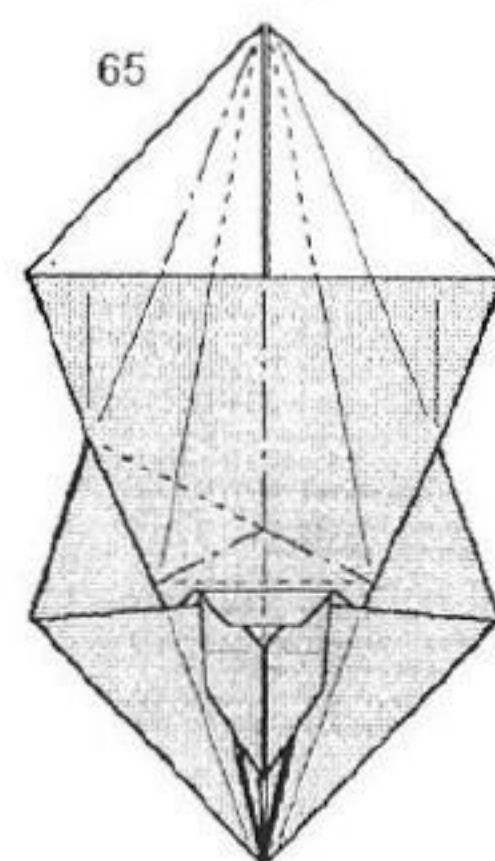
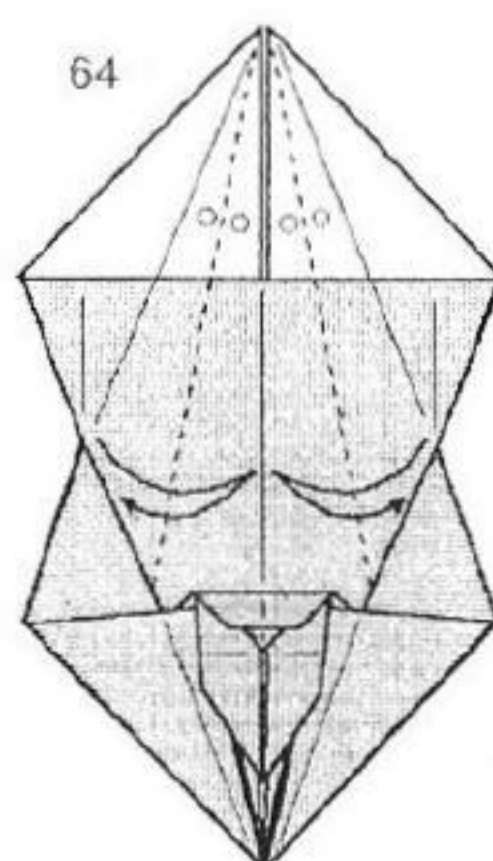
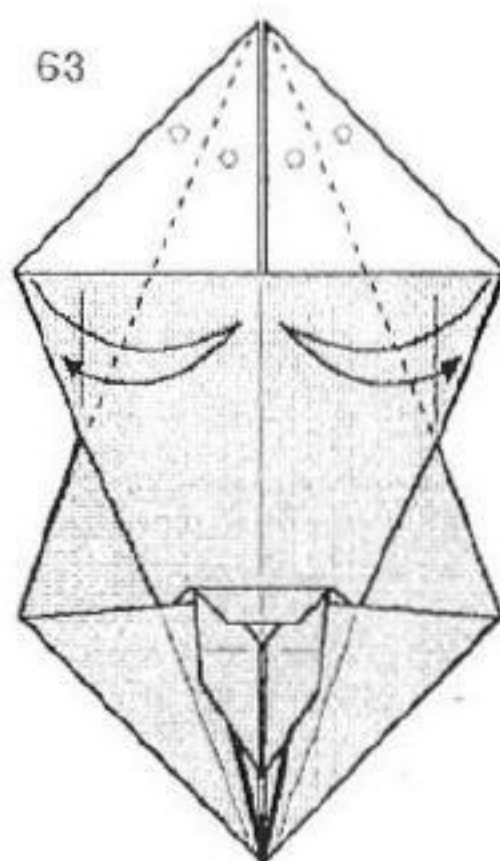
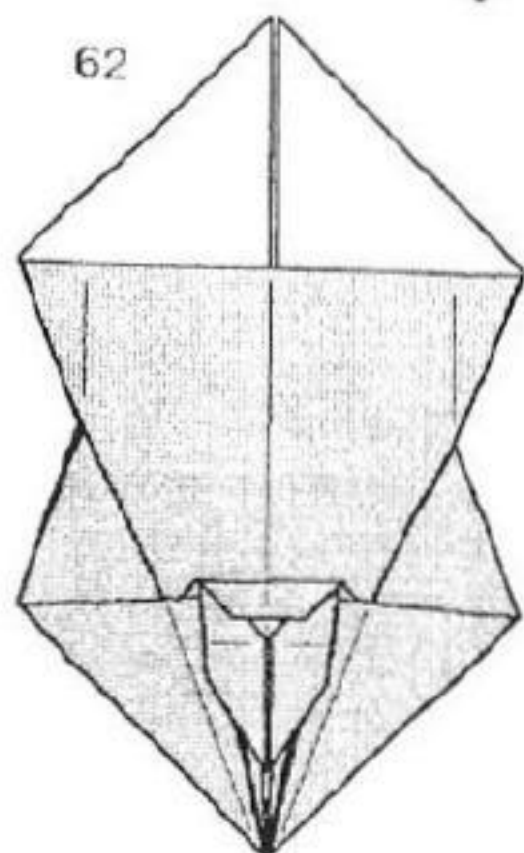
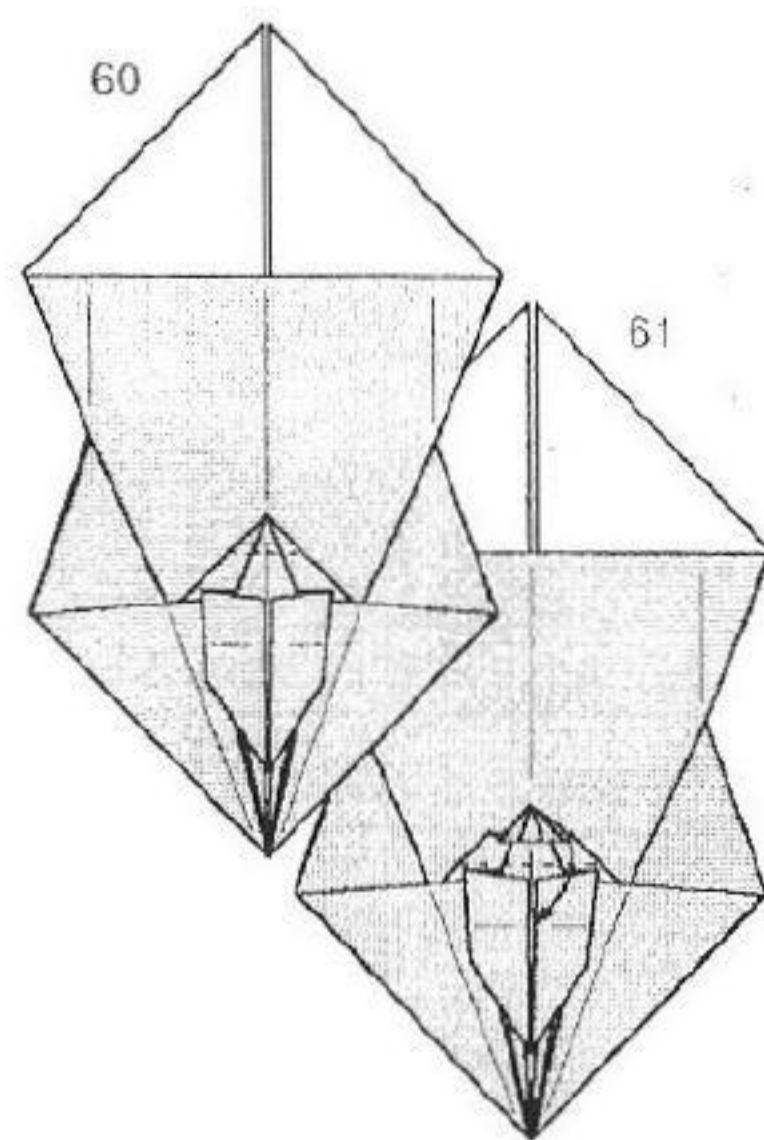
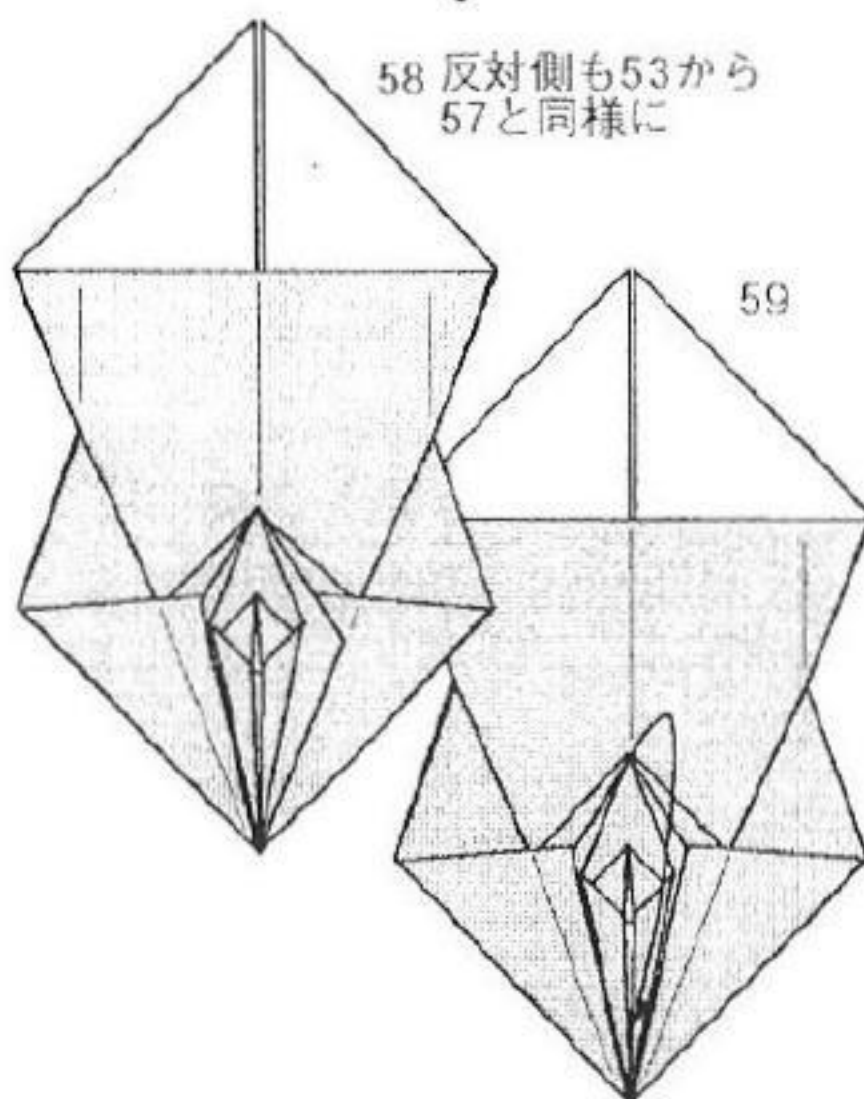
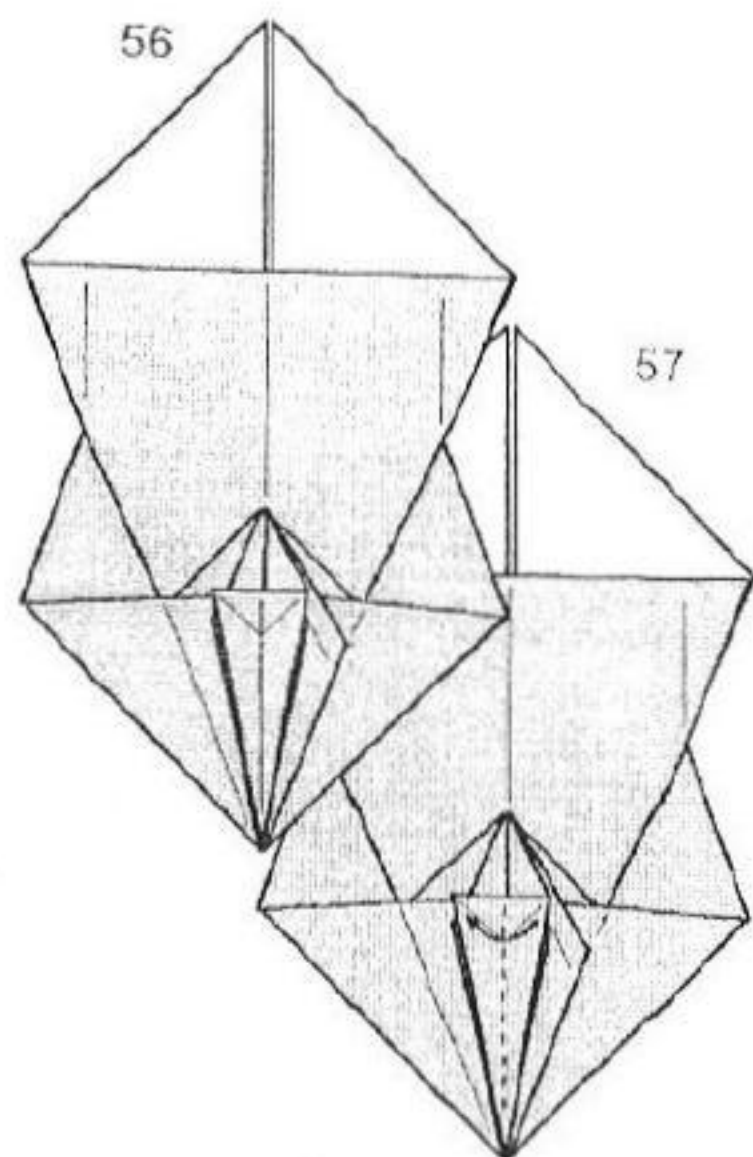
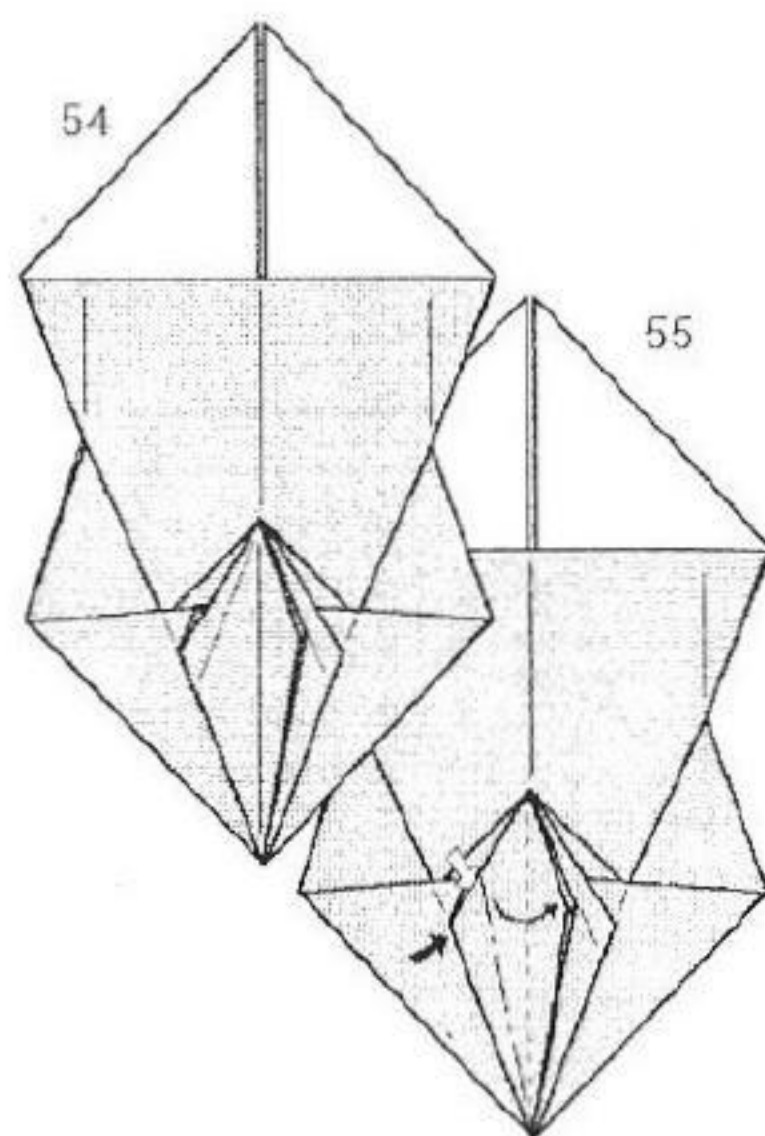
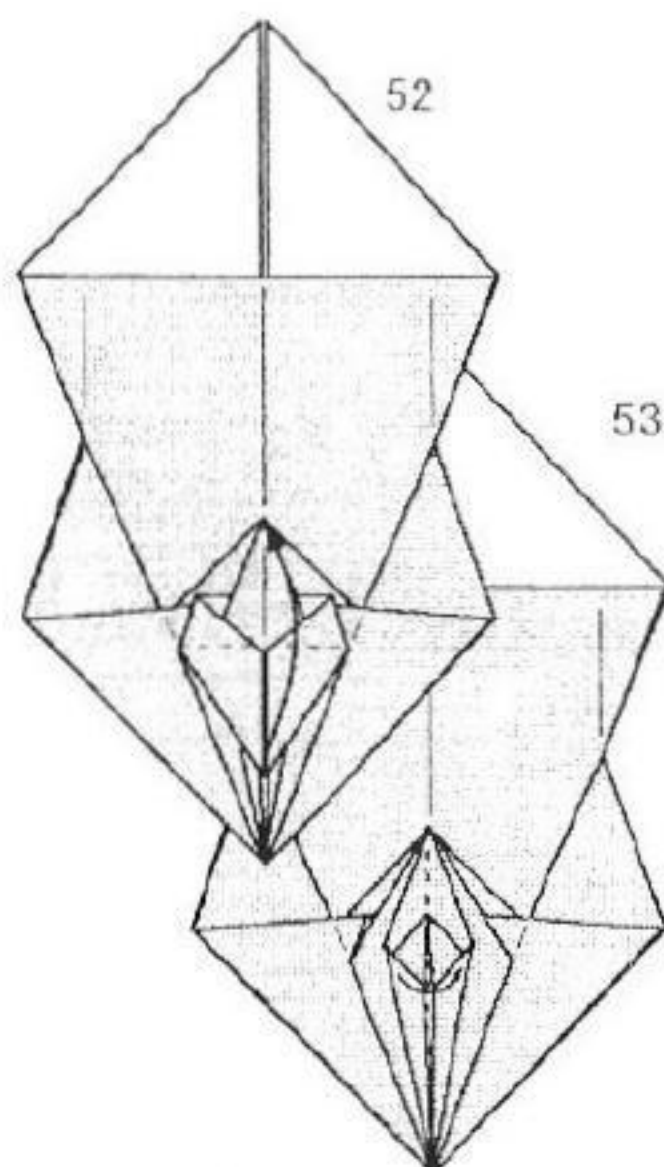
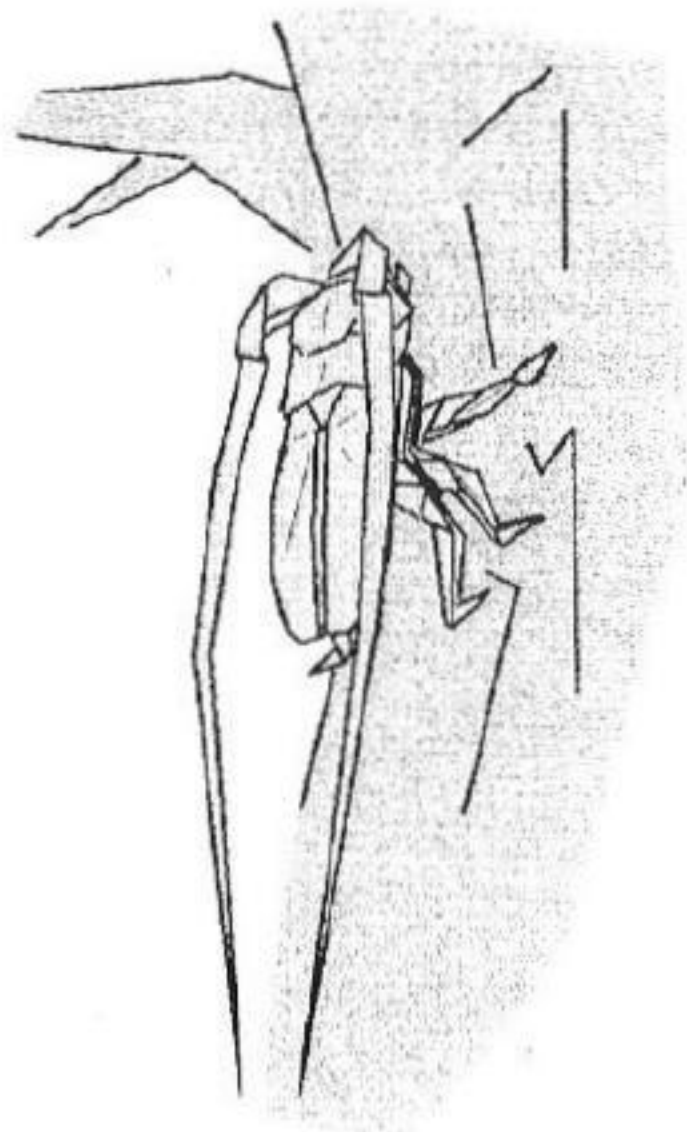


技術はなかなか馬鹿にはできないので、あり得ないことではないと思って折って見ると簡単にできた。(あとで笠原氏の『トップおりがみ』を見たら、川崎氏の表裏同等折りの例として折り図までついて載っていた。裏も表も同じになるので、メンコにはならず、コースターとしてある。すっかり忘れていた。)その後よく考えてみたが、やはり普通のメンコで、色分けは、紙の一部だけに模様がある紙か、または一部に別の紙を張り付けたものとすべきだろうと思う。特に証拠もないが、たとう類で上側だけに別紙を張り付けたものはよくあることだ。

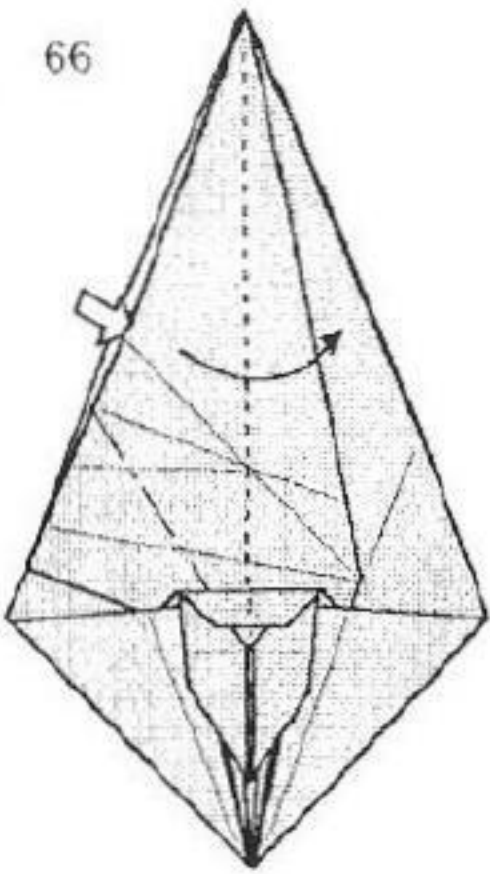
図は、国立国会図書館蔵「絵本神名帳」より

料理長のお褒め品

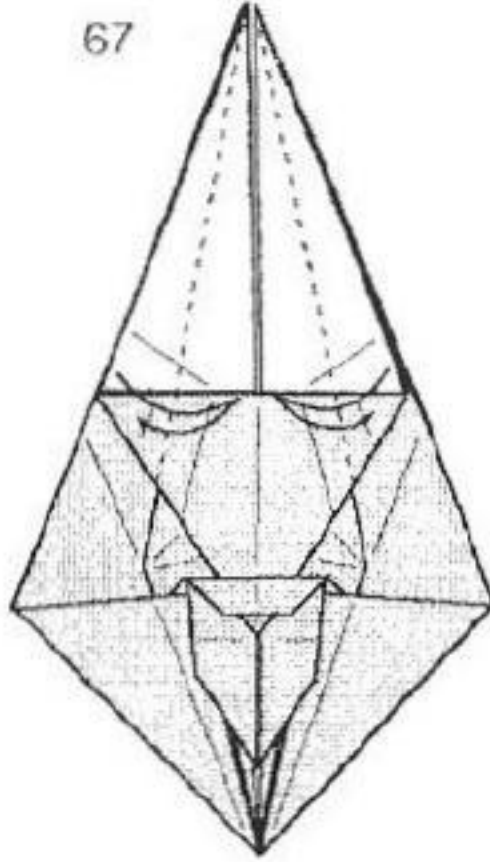
カミキリムシ (後編)
創作・作図 西川誠司



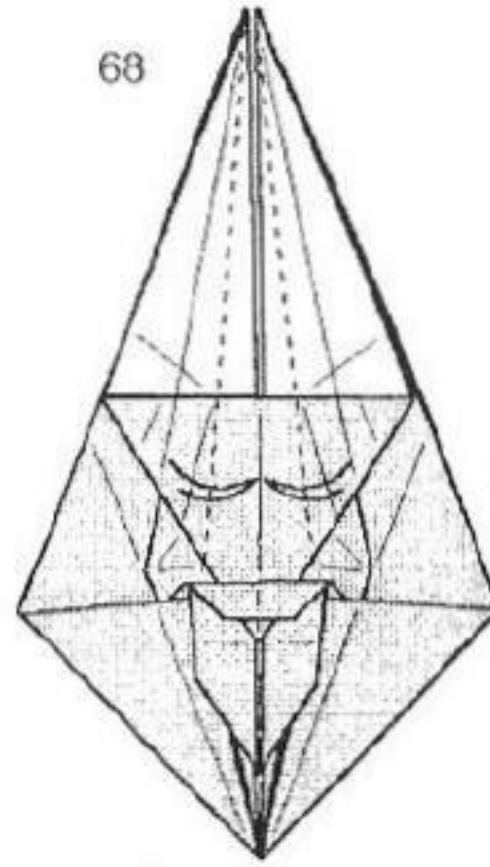
66



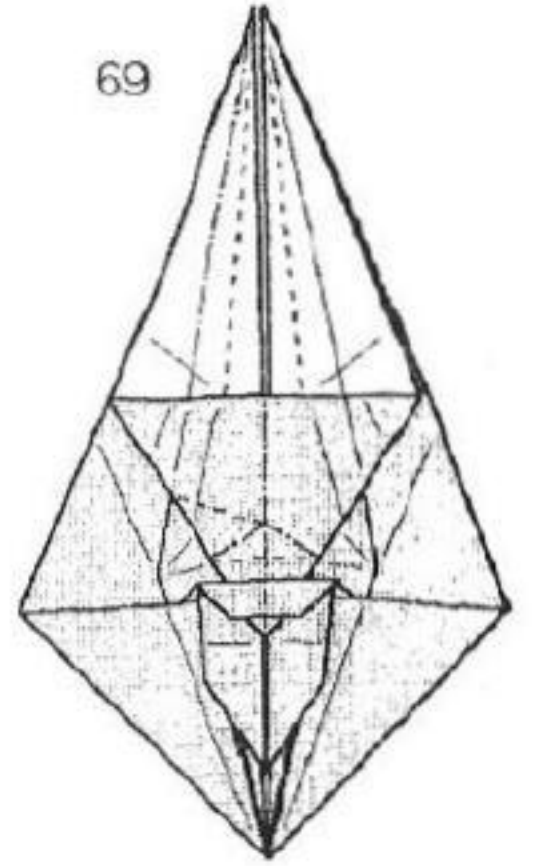
67



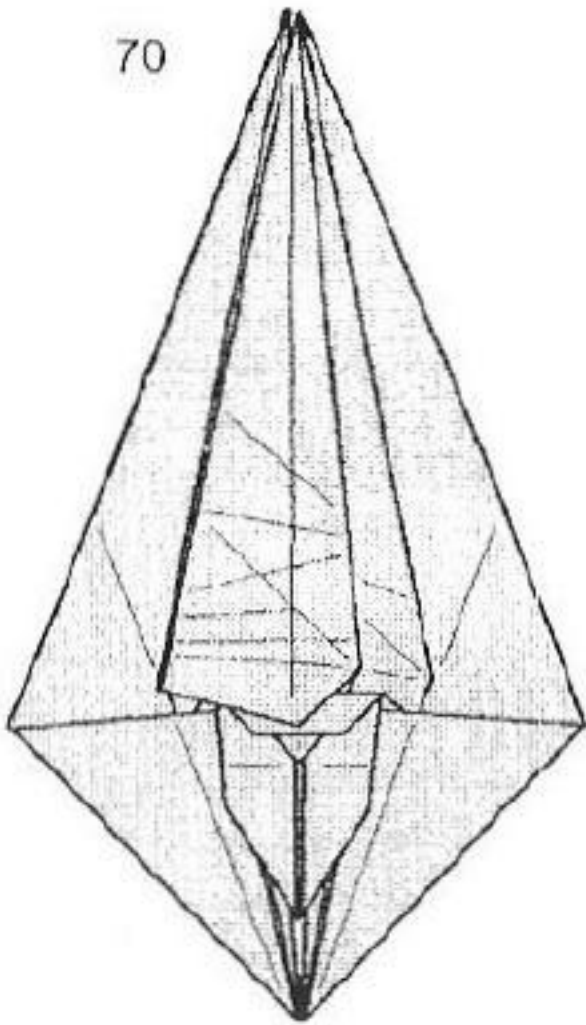
68



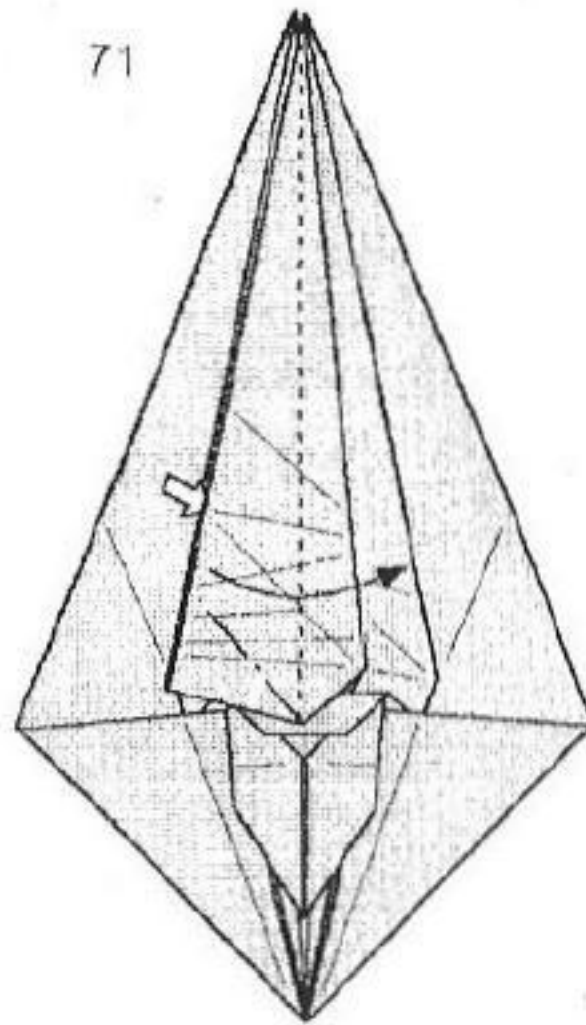
69



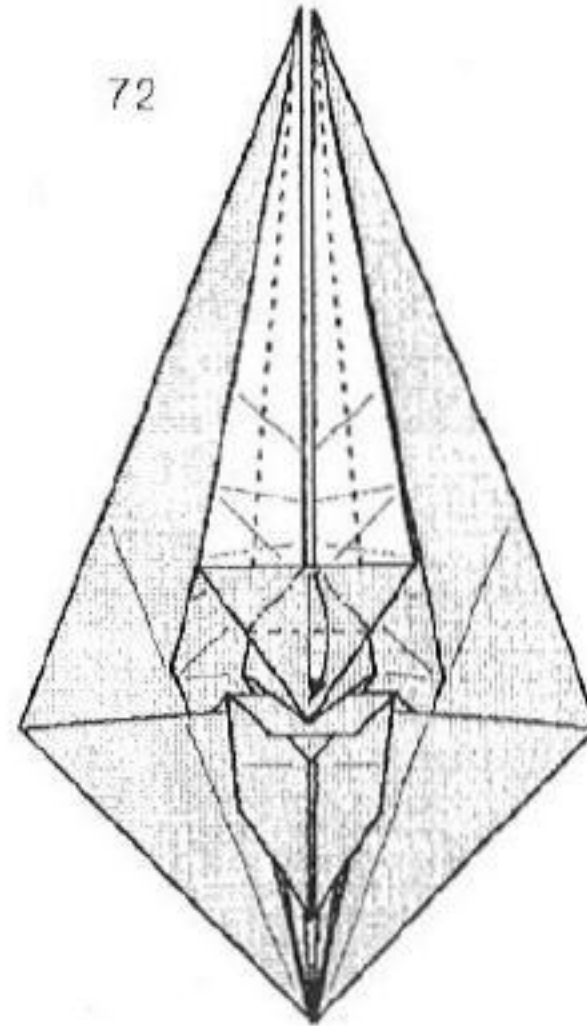
70



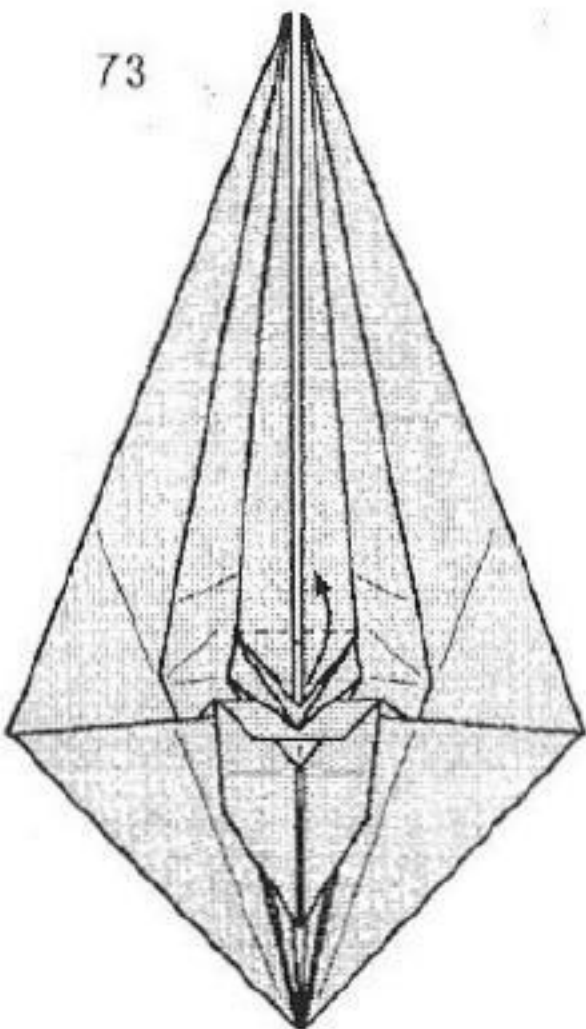
71



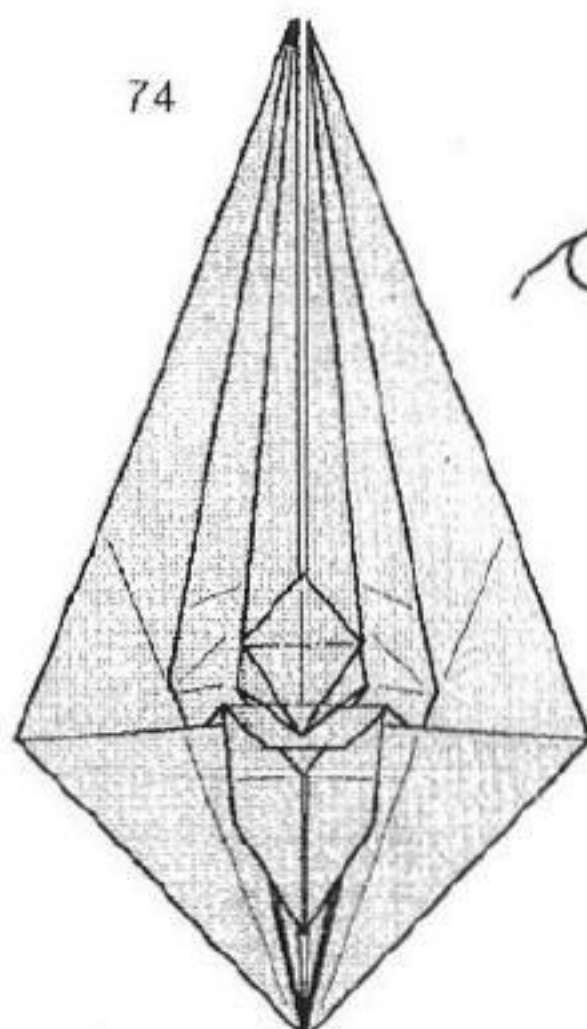
72



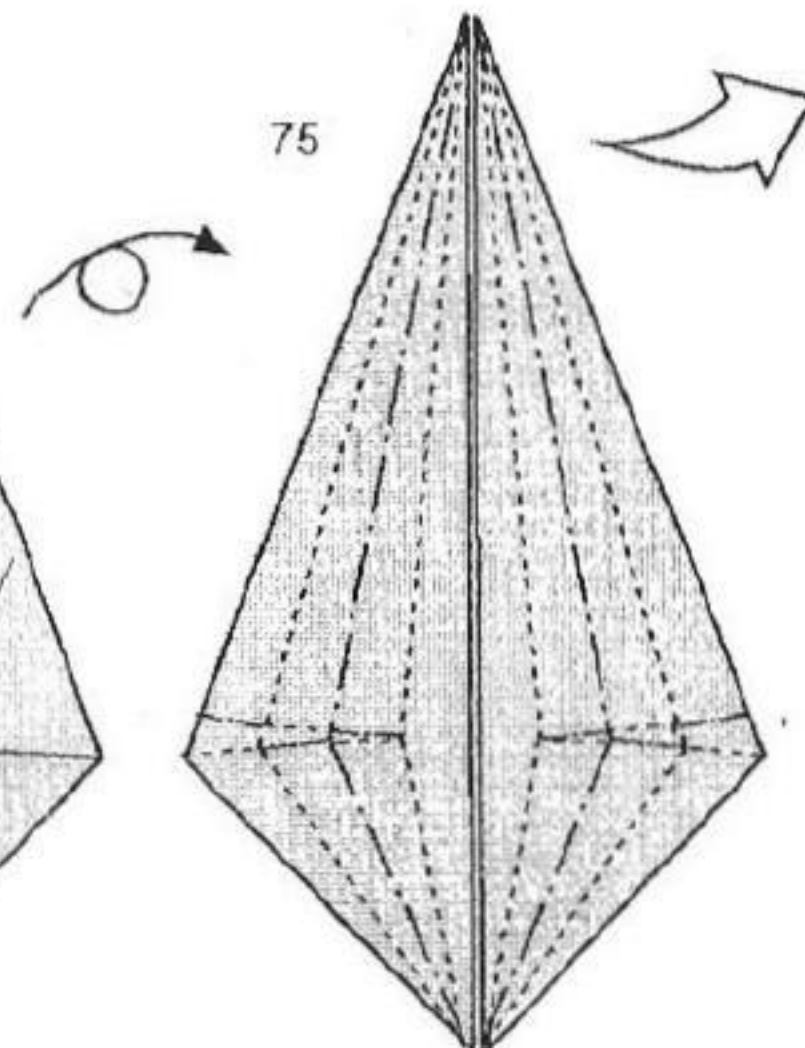
73



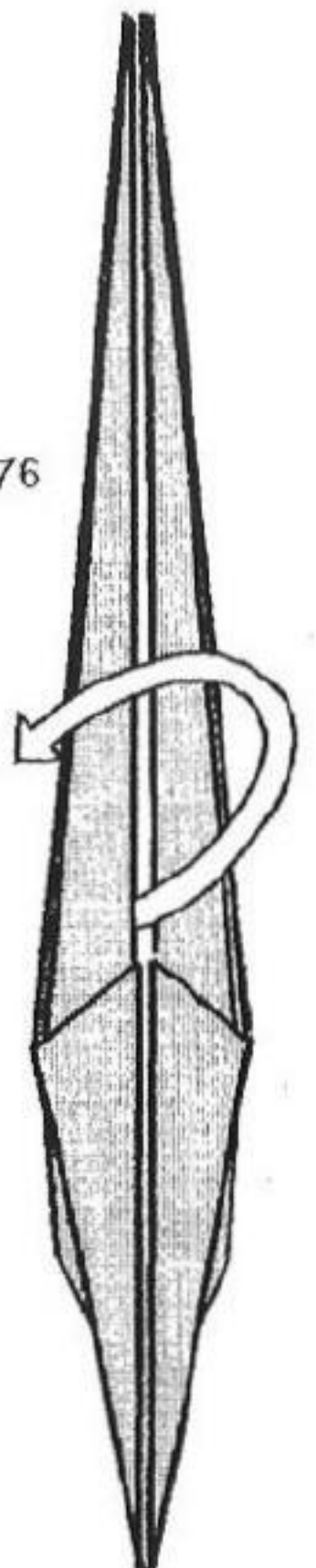
74



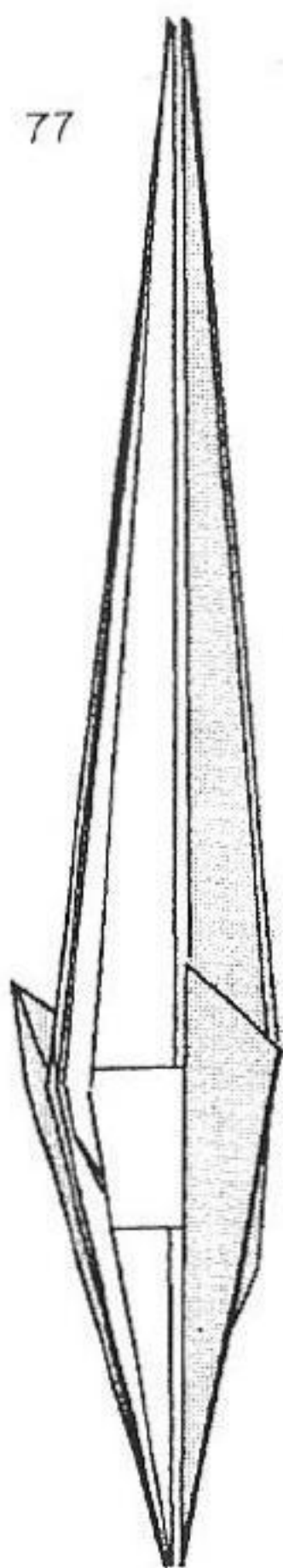
75



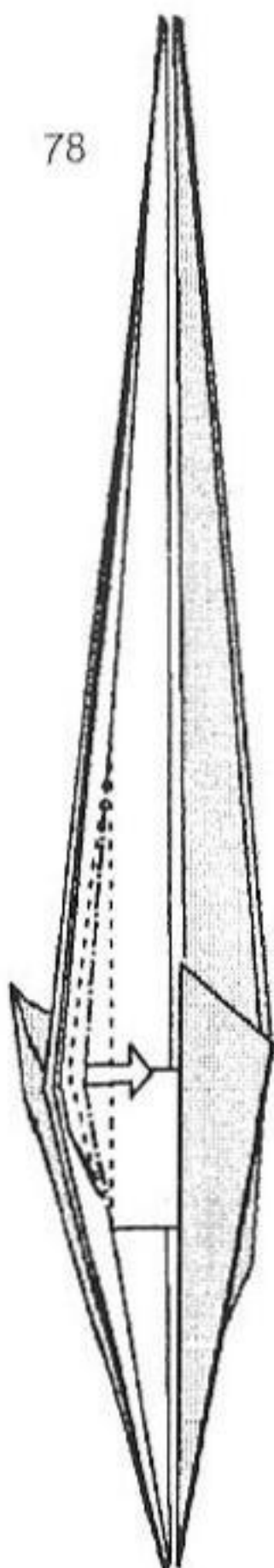
76



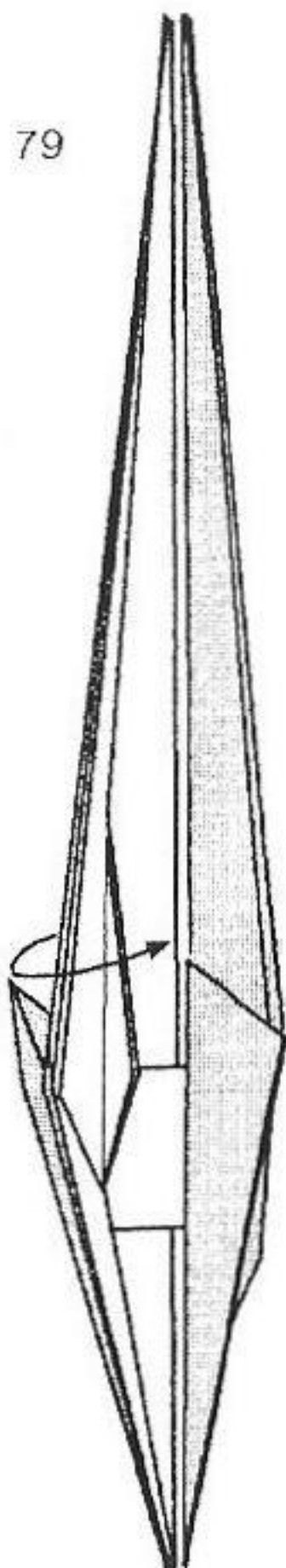
77



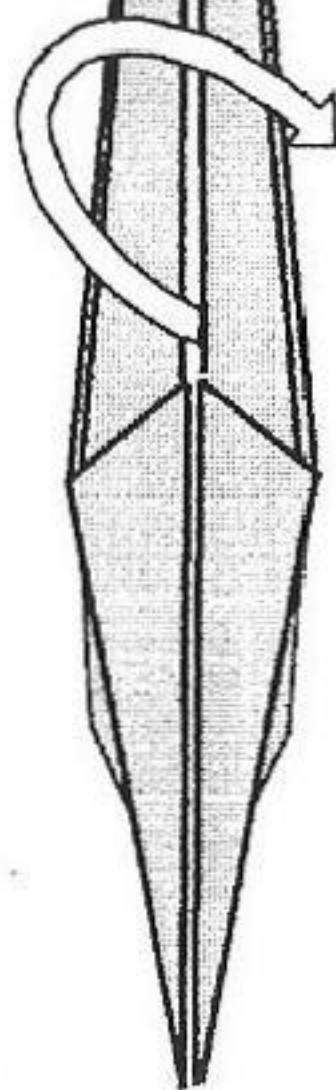
78



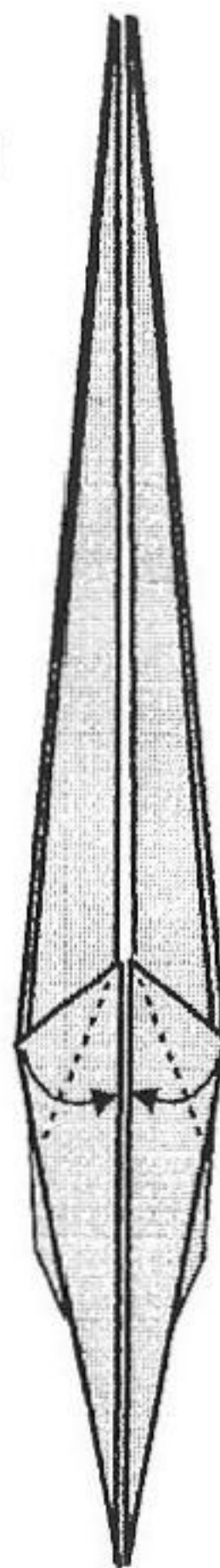
79



80

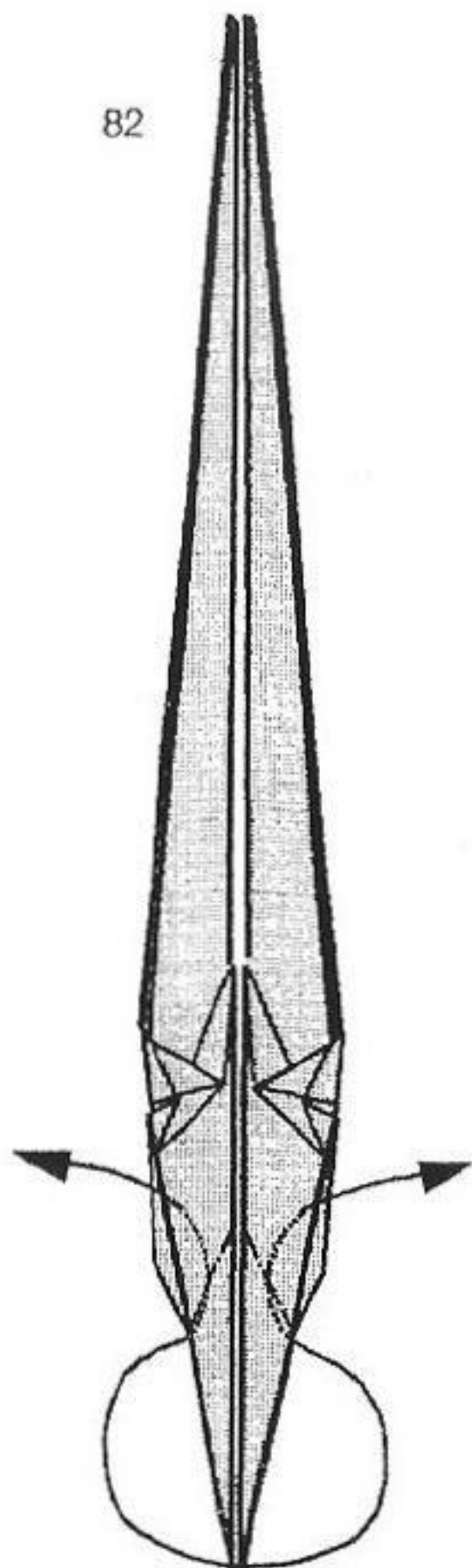


81

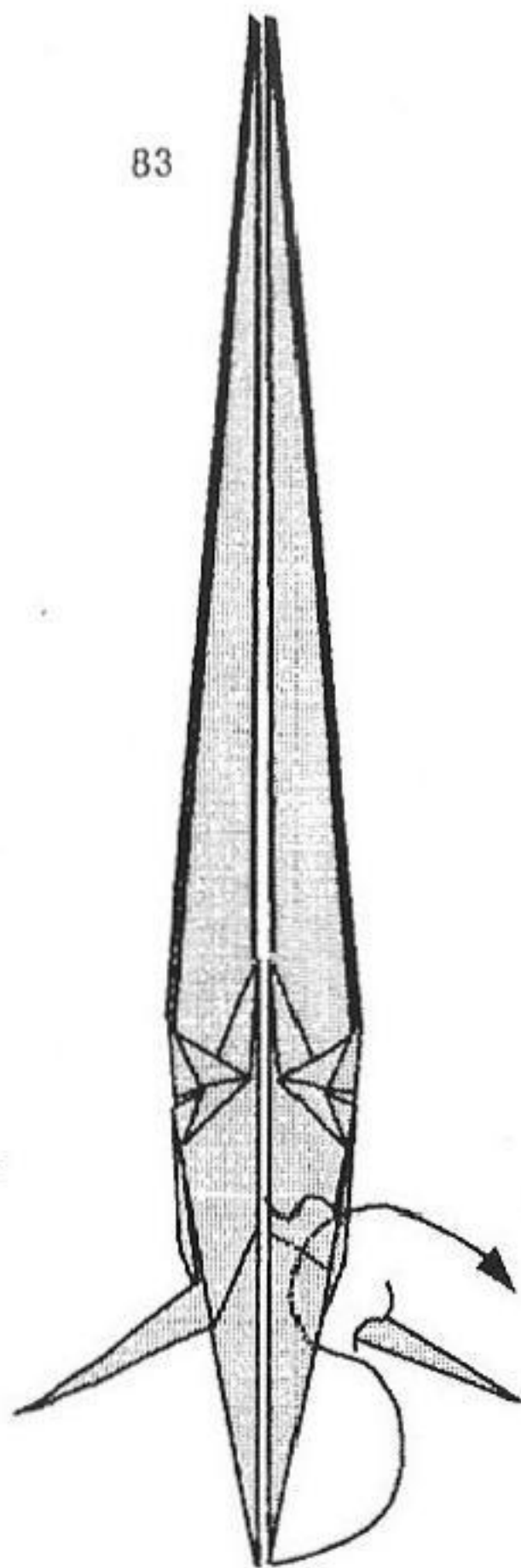


76から79と同様に

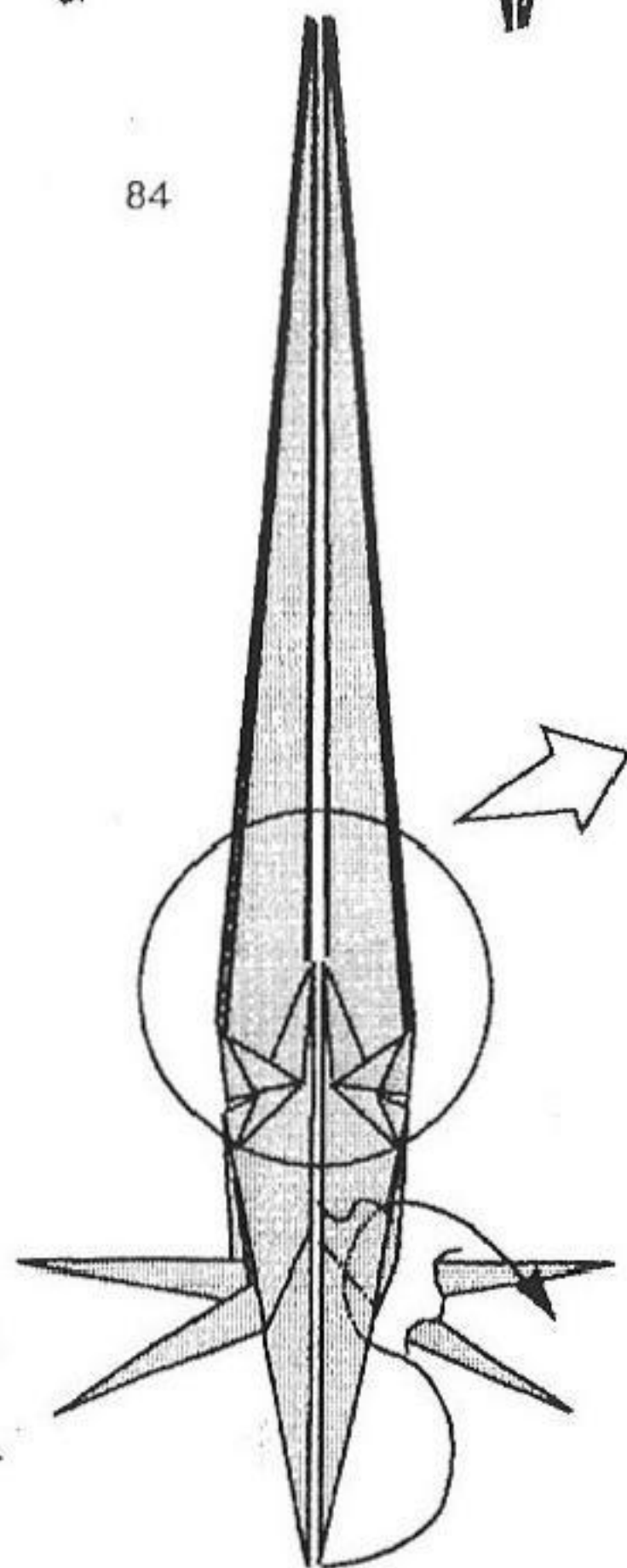
82



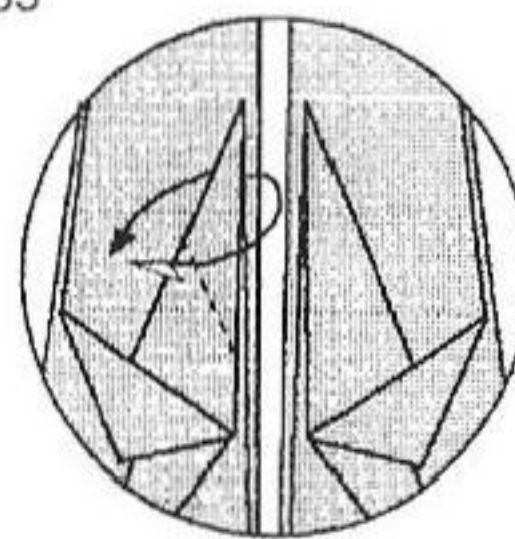
83



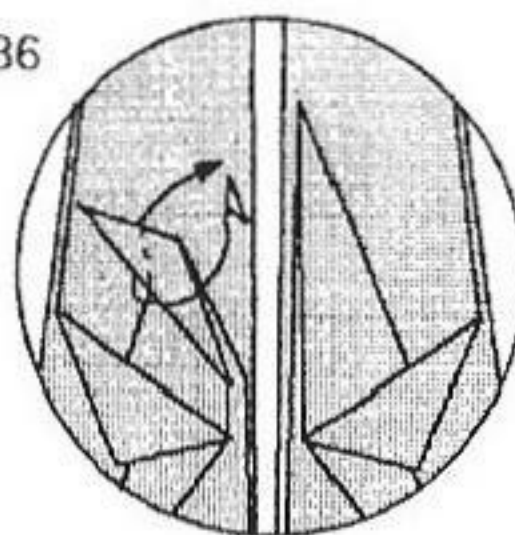
84



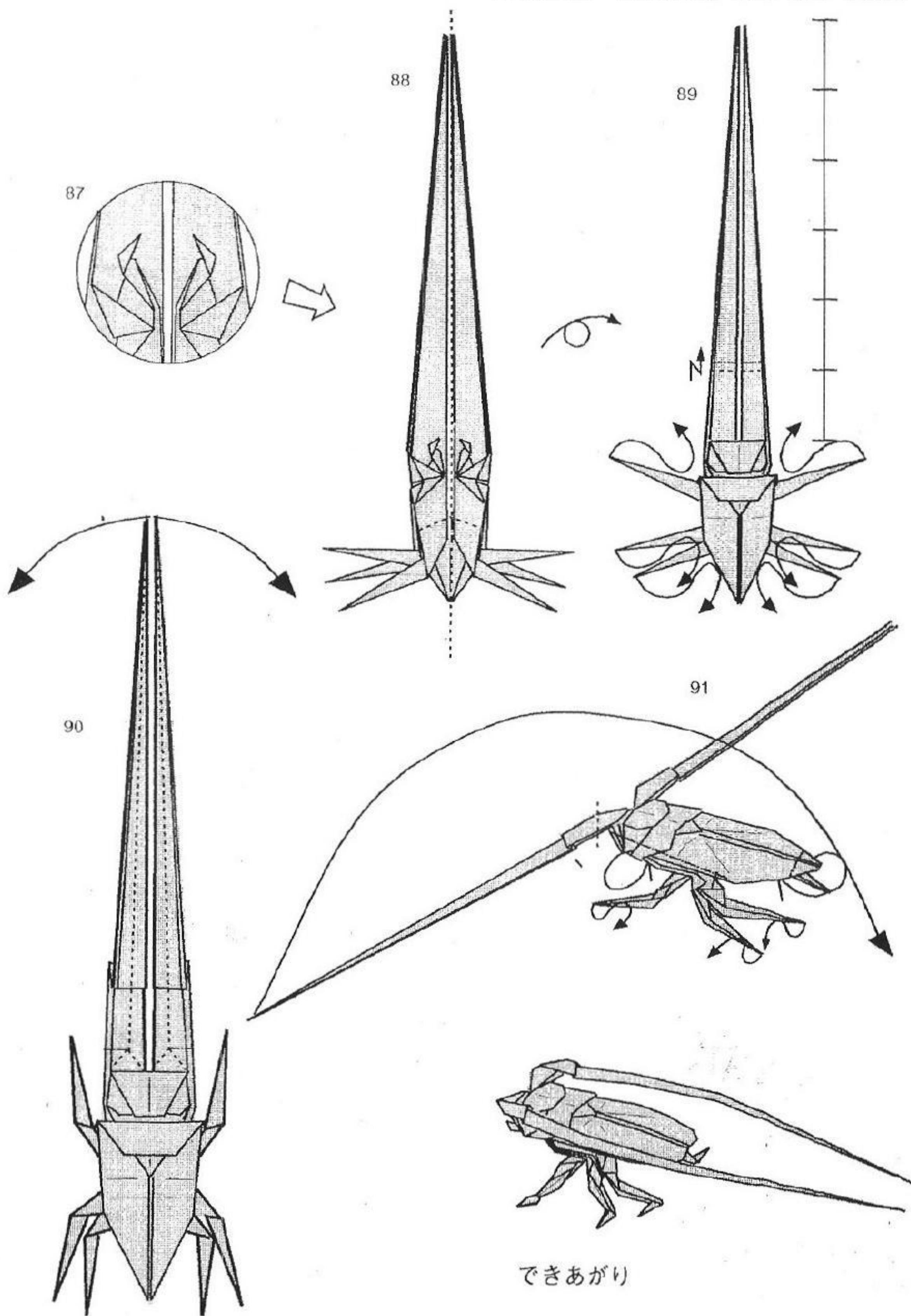
85



86



右側も同様に

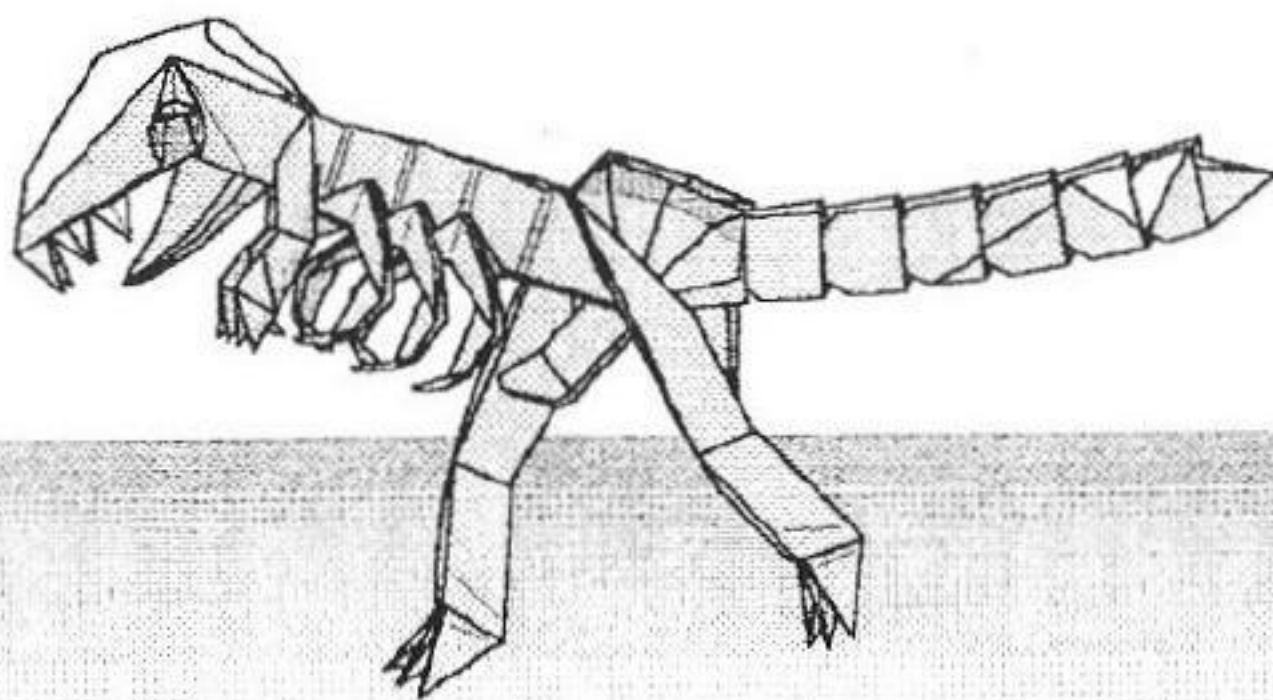


正方形不切一枚折 ティラノサウルス全身骨格

ロバート・J・ラング

Tyrannosaurus Rex Skeleton
by Robert J. Lang. ©1992

料理長のお奨め品

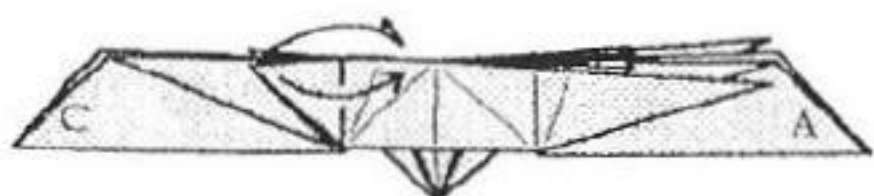


編集部注

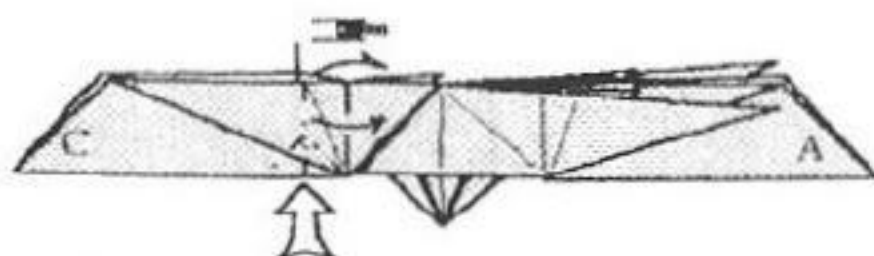
図中の
この記号は

これと同じで
「おりすじを
つける」
の意味です

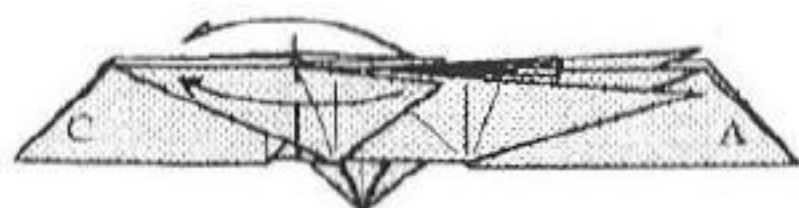
..... の線は仮想線です
折りすじをつけないように



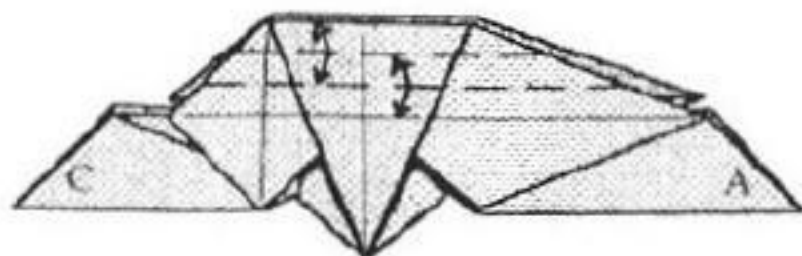
<53>左側の小さな角を右へたおす
裏側も同様



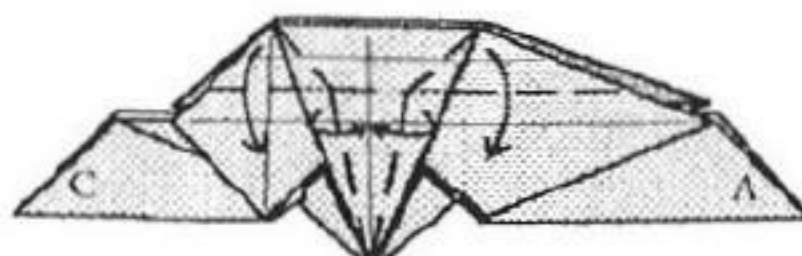
<55>下の辺をへこませながら
C部を両面段折り



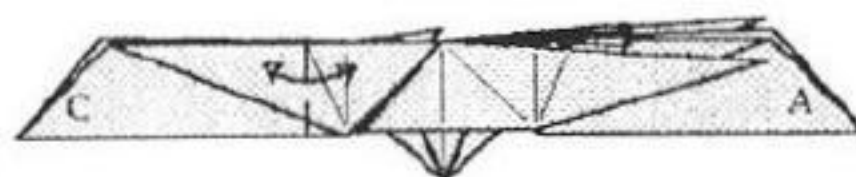
<57>2つの小さい角を左へたおす



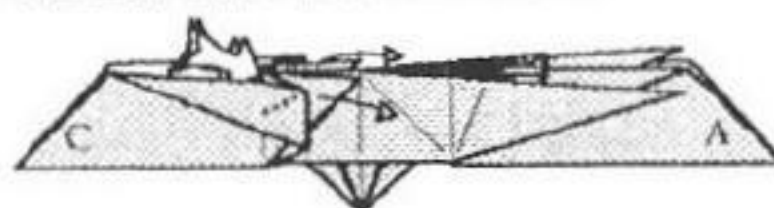
<59>手前の一枚のみ
三等分の折りすじをつける



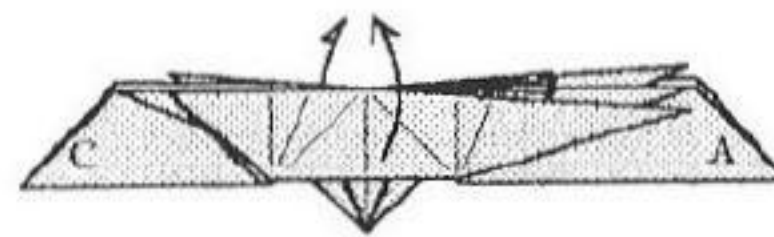
<61>中央の三角形の二辺を中心にひきよ
せながら上の辺の2/3を折り下げる



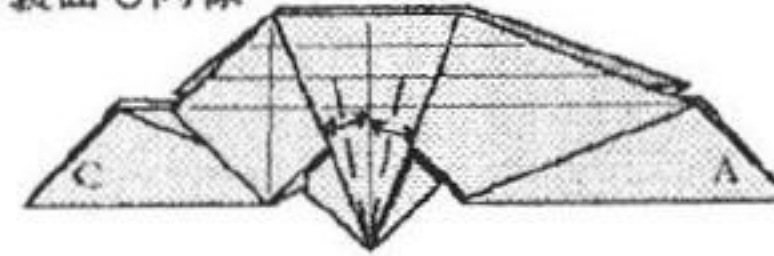
<54>C部に折り線をつける
すでについている折りすじと作品の上
の辺とが交わる点を通ること



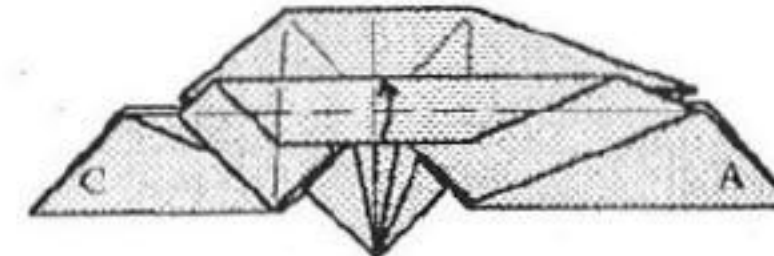
<56>内側に隠れている角を沈めながら
短い2つの角をいっばいに引き出す



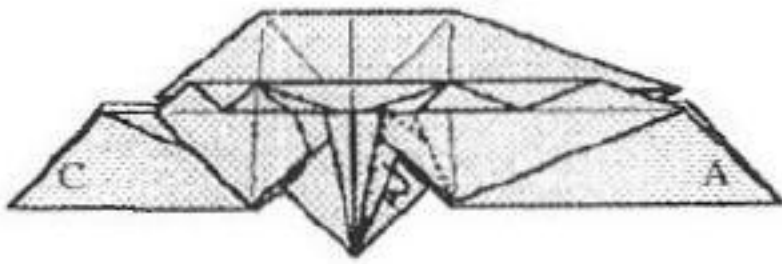
<58>手前の一枚を折り上げる
裏面も同様



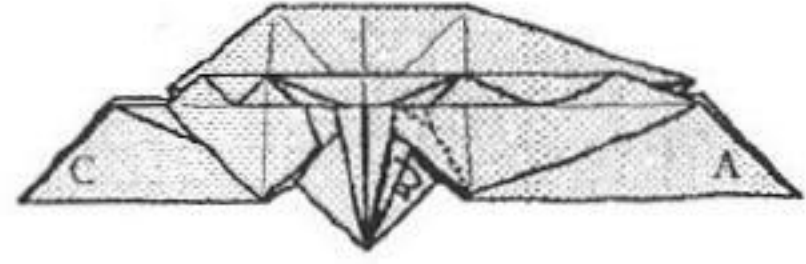
<60>左の一枚と右の三枚に
折りすじをつける



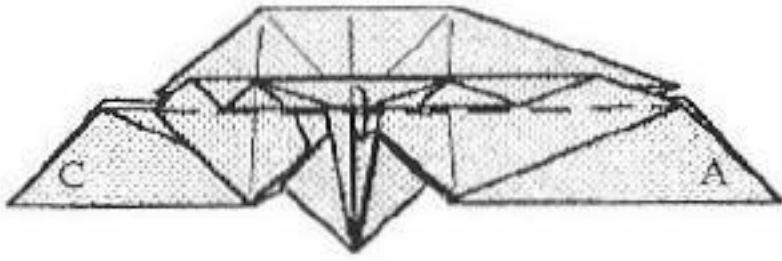
<62>付いている折り線で折り上げる



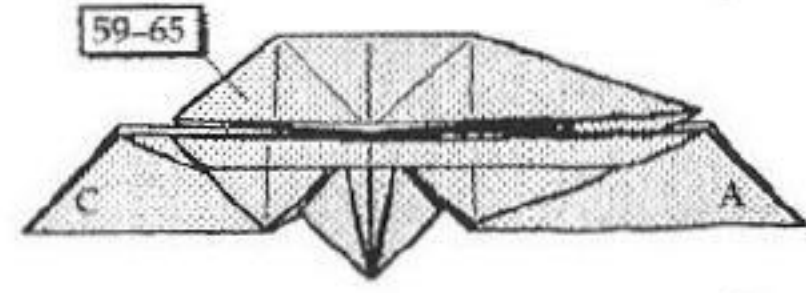
<63>一枚を山折りして裏に折る



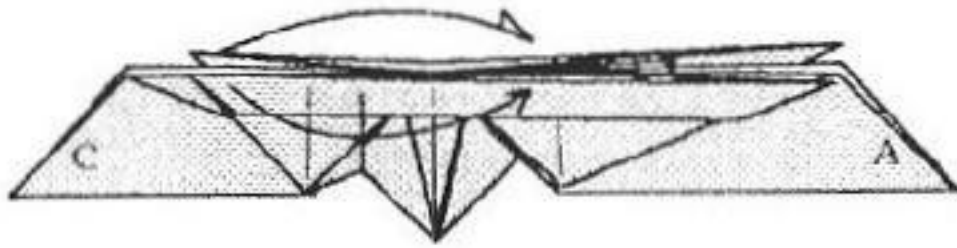
<64>さらに一枚を山折りして裏に折る



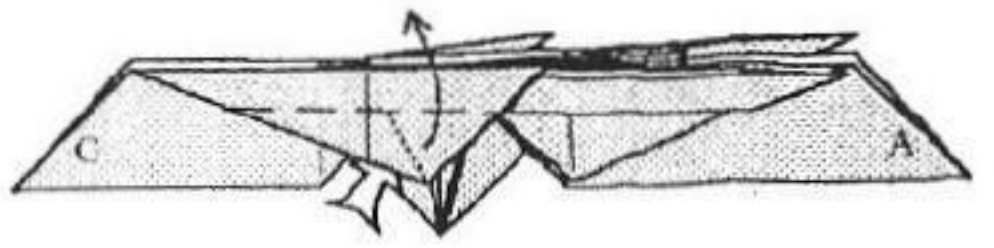
<65>折り下げる



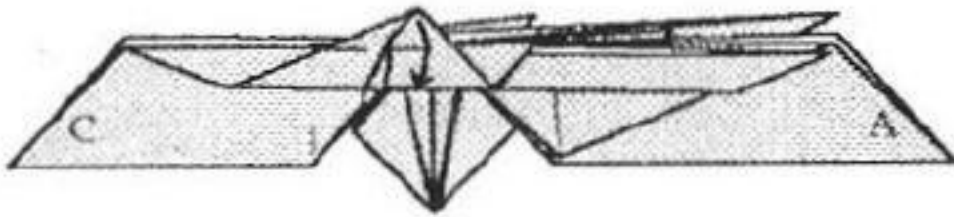
<66>裏面も<59>~<65>と同様



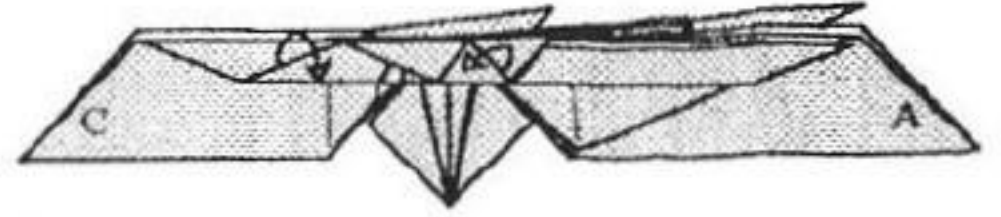
<67>手前の短い角をいっぱい右へたおす
裏面も同様



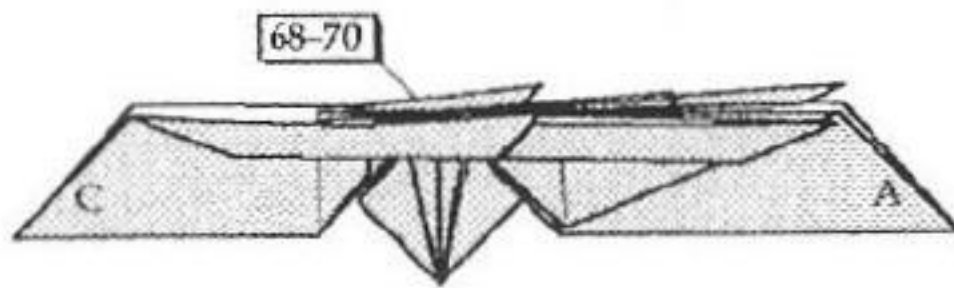
<68>内側に小さなつぶし折りを
しながら折り上げる



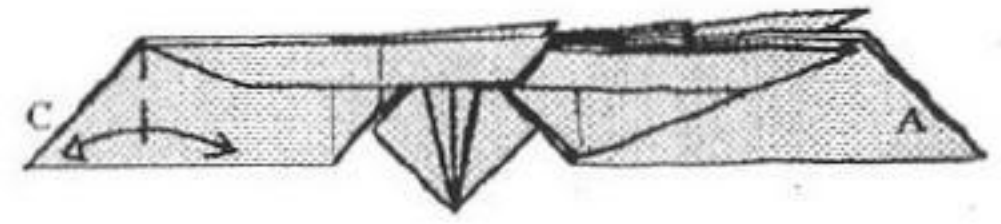
<69>折り下げる



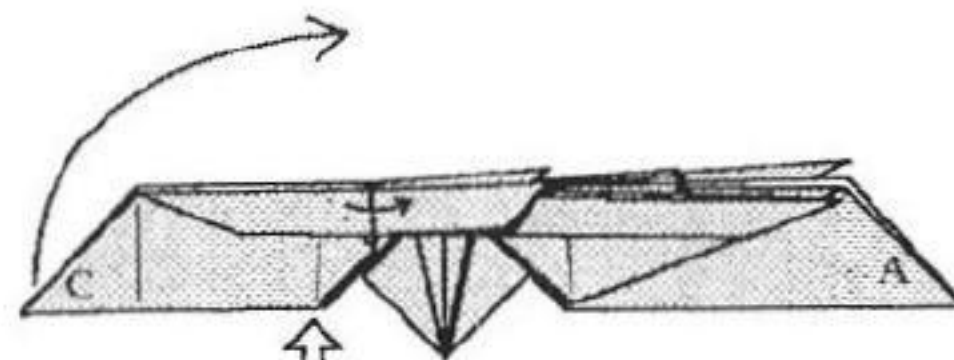
<70>後ろの一枚でつつみこむ



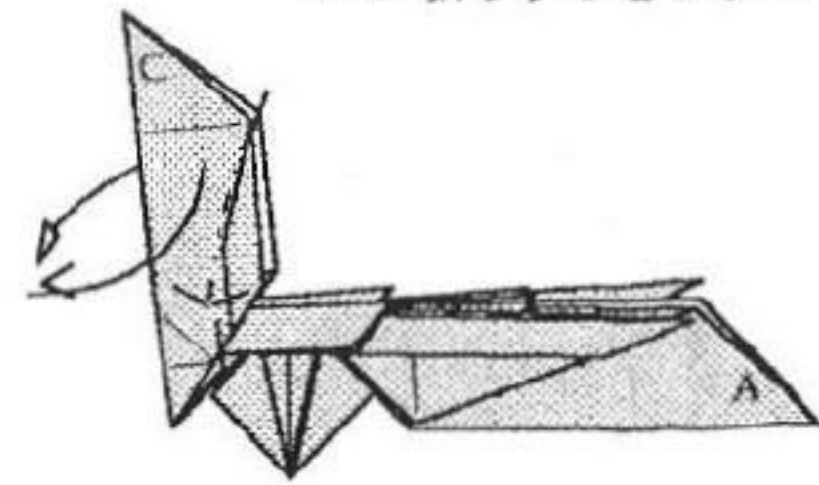
<71>裏面も<68>~<70>と同じ



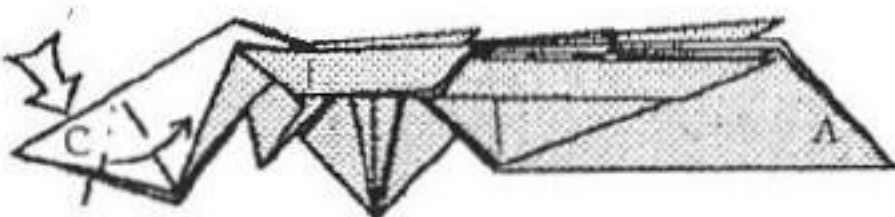
<72>折りすじをつける



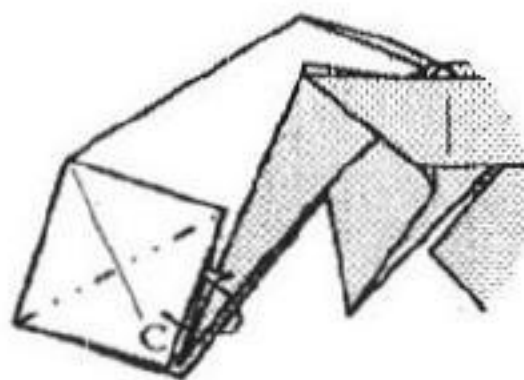
<73>つぶしながらCを折り上げる



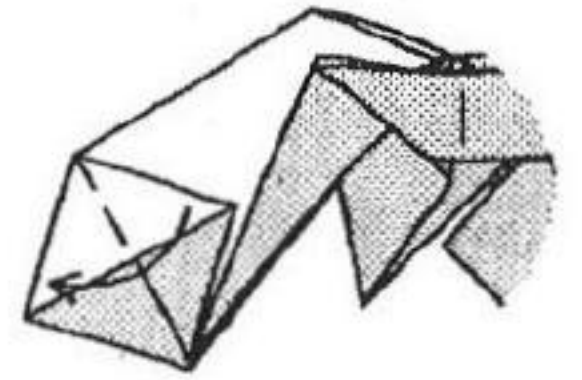
<74>かぶせ折りで折り下げる



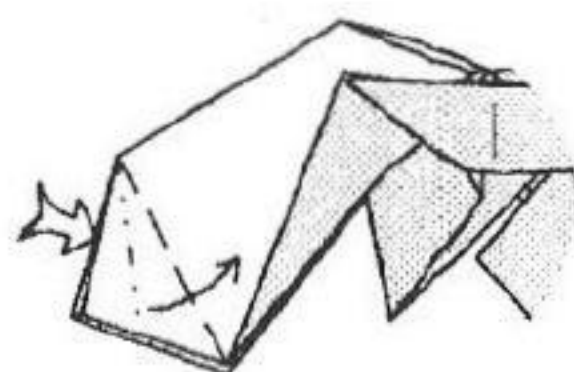
<75>Cの角を正方基本形のように折る



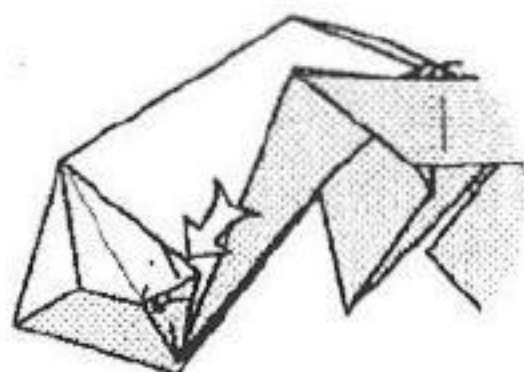
<76>Cの角を内側へ
折り込む



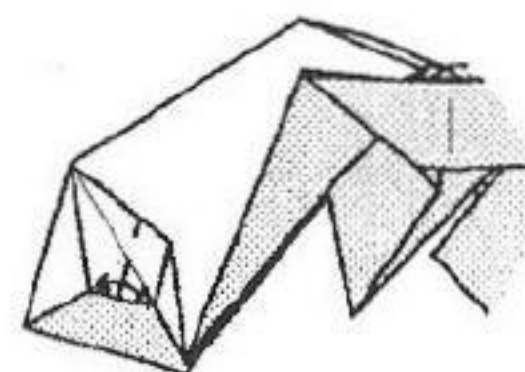
<77>左へたおす



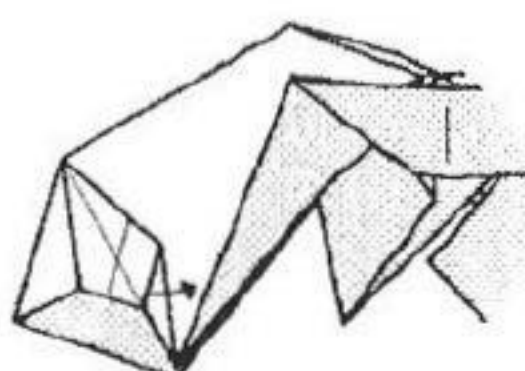
<78>つぶし折り



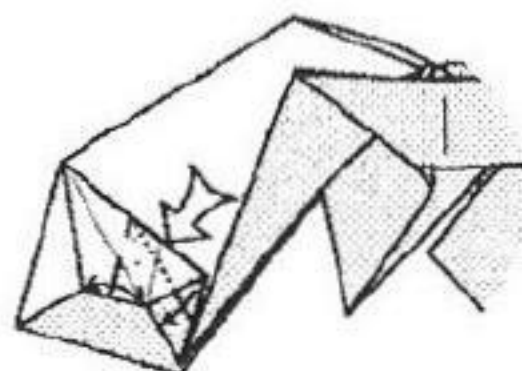
<79>なかわり折り



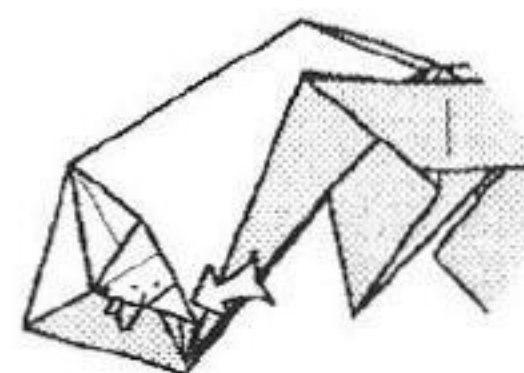
<80>折りすじをつける



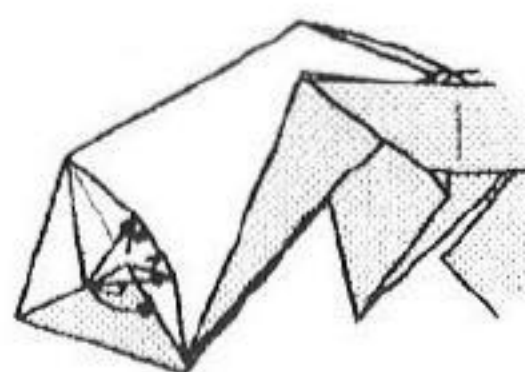
<81> <79>での
なかわり折りをもどす



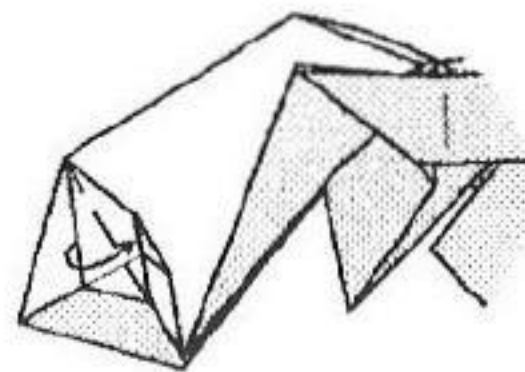
<82>つぶし折り



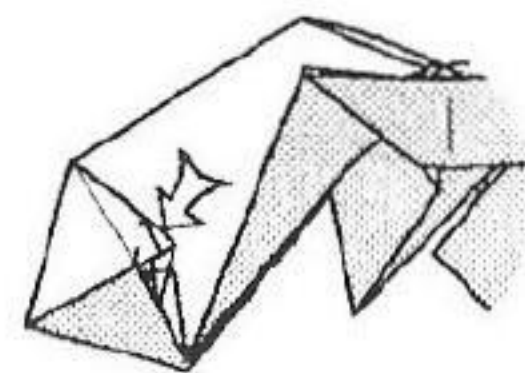
<83>内側に引きよせる



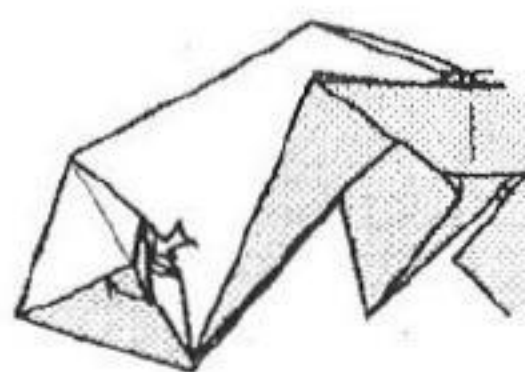
<84>つまみ折り



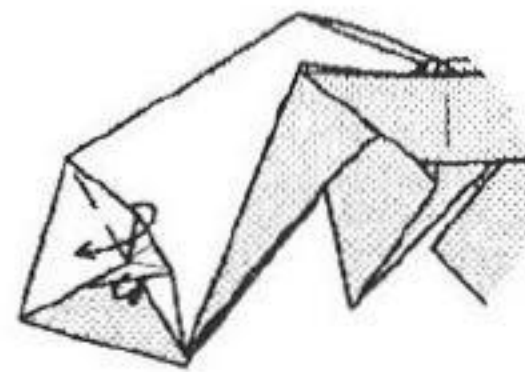
<85>一枚だけ右へたおす



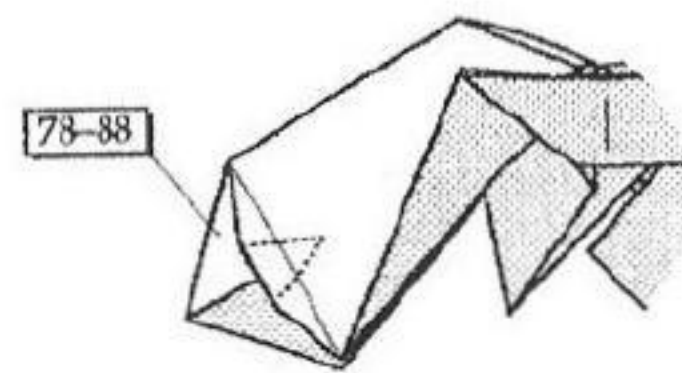
<86>押し込むように
なかわり折り



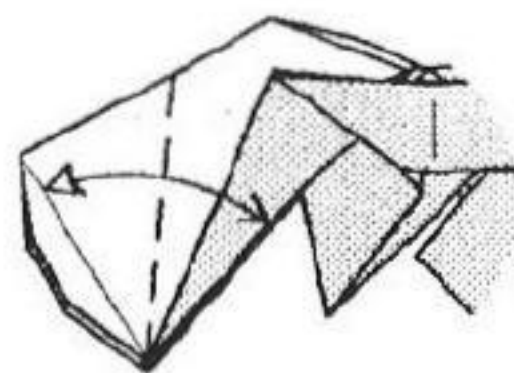
<87>角を引き出し
平らにのばす



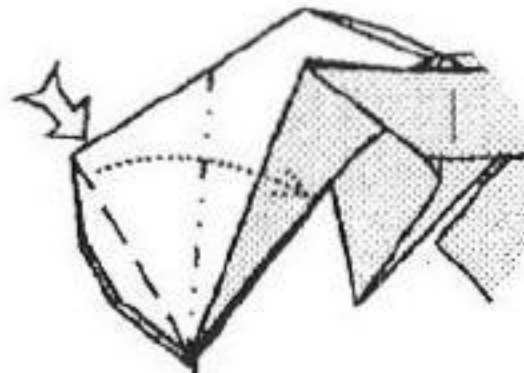
<88>谷折りして辺をかえす
ただし角は折らずに内側に
しまう



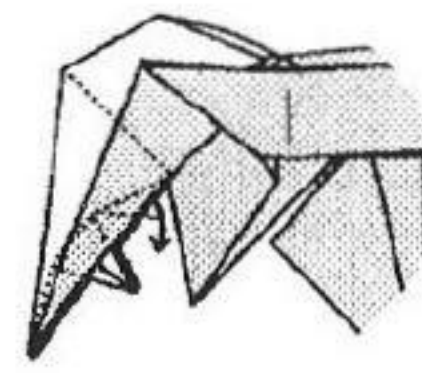
<89>裏面も<78>~<88>
と同様



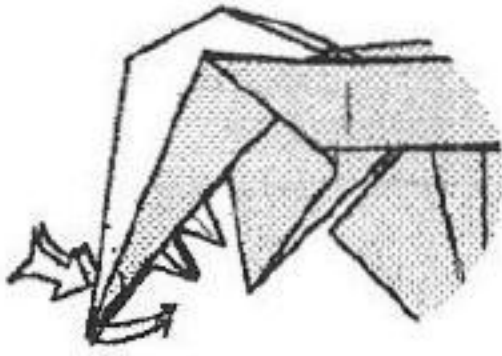
<90>折りすじをつける



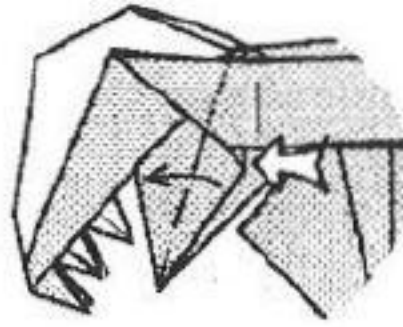
<91>付いている折りすじで
なかわり折り二回



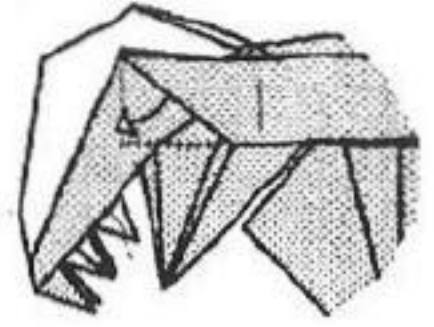
<92>ポケットの中の一枚のみ
両面を段折り



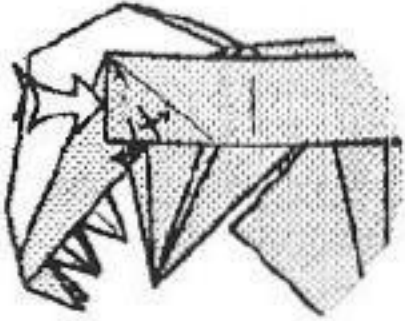
<93> 2つの角をそれぞれ
なかわり折り



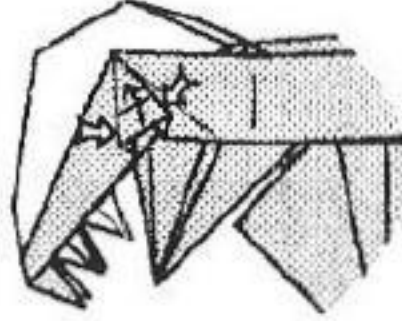
<94> あごの下のかどを
なかわり折り
裏面も同様



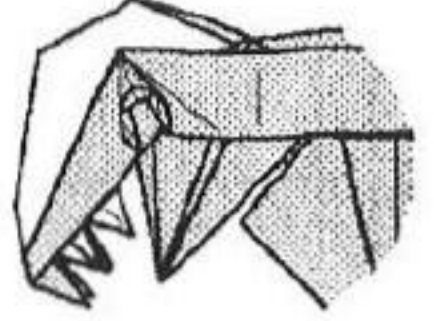
<95> 折り込まれている紙を
ひきだす 裏面も同様



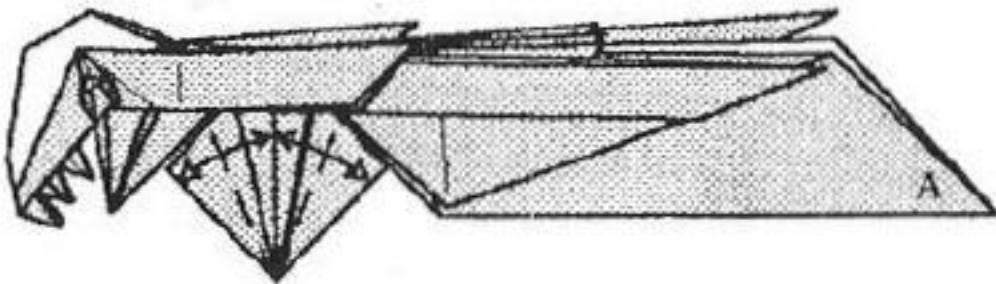
<96> つぶし折り
裏面も同様



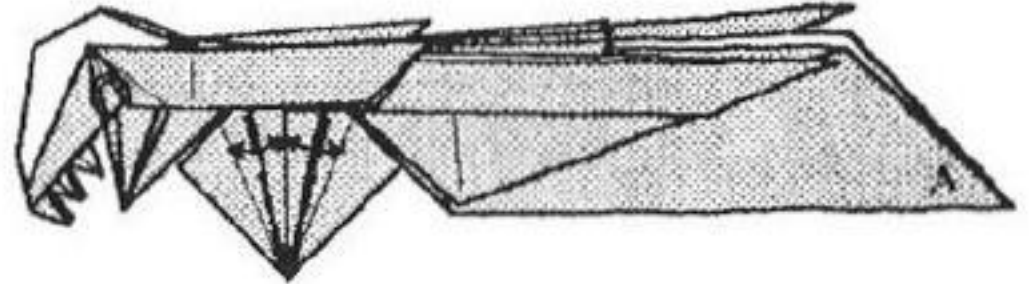
<97> 目になる部分の
下の辺をひらいて
丸く立体的に仕上げる



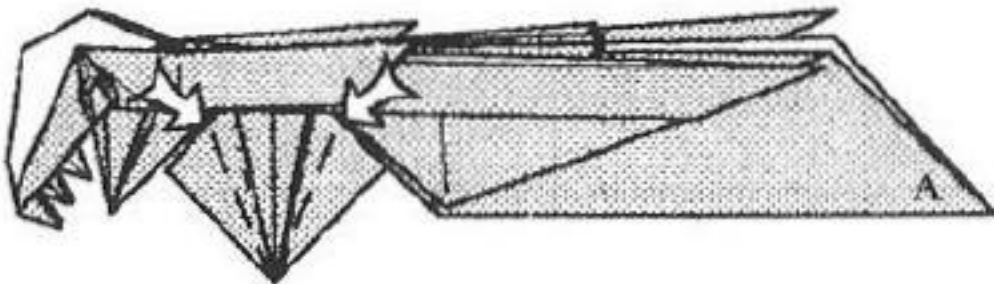
<98> 頭部完成



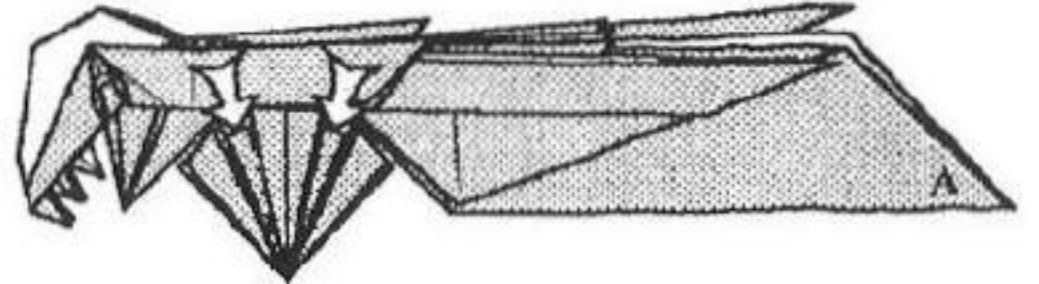
<99> 左右ともに一枚だけ
折りすじをつける



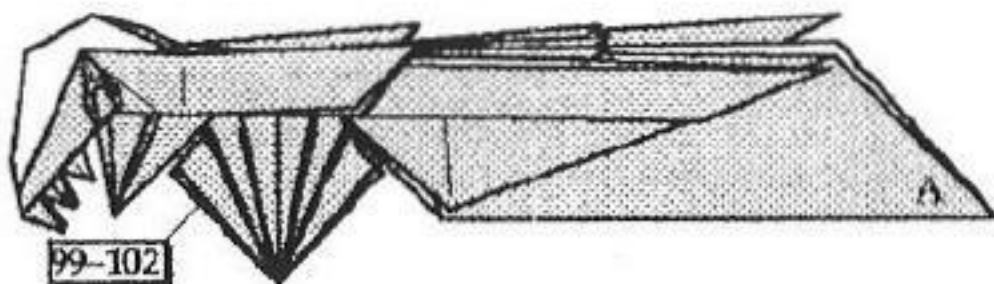
<100> さらに左右とも
一枚だけ折りすじをつける



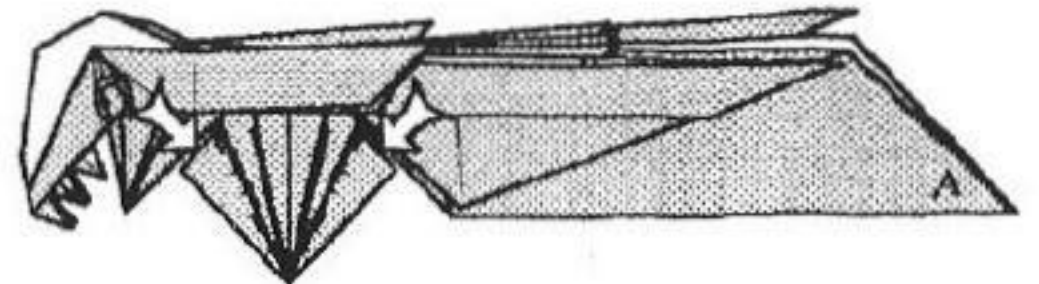
<101> それぞれなかわり折り 2回



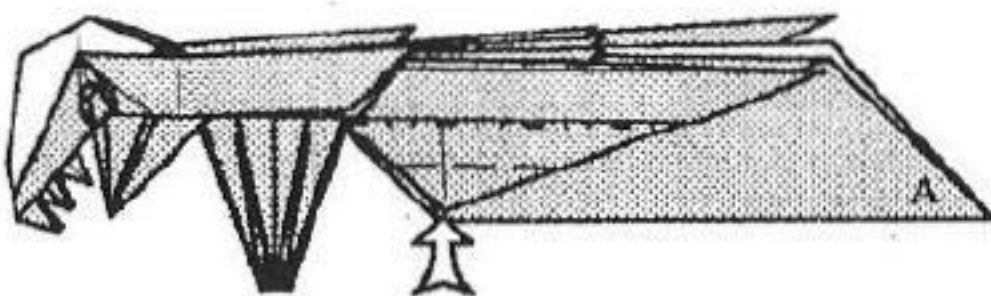
<102> なかわり折り



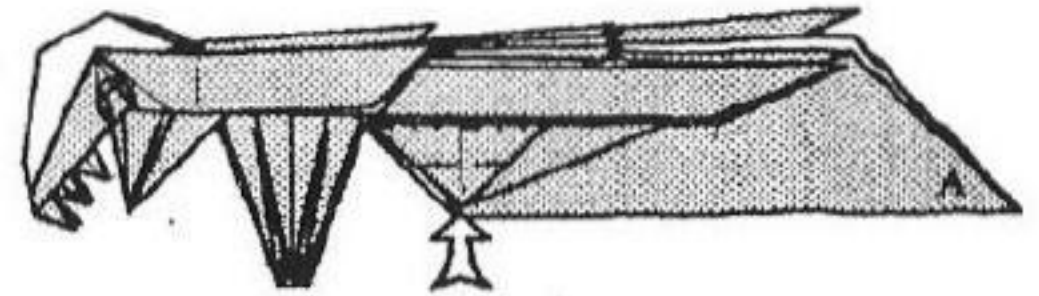
<103> 裏面も<99>~<102>と同様



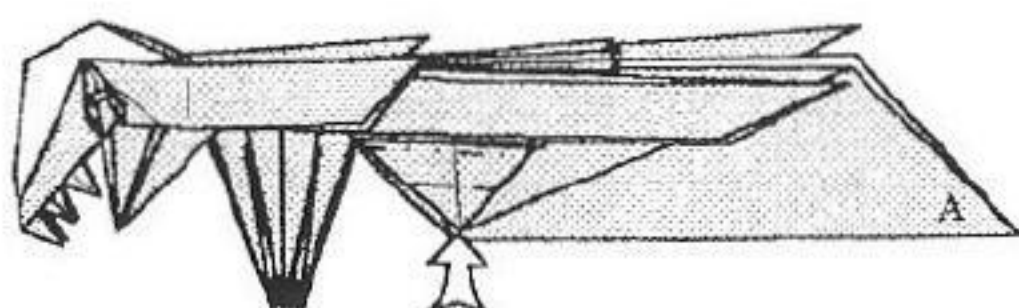
<104> のこりの辺もなかわり折り



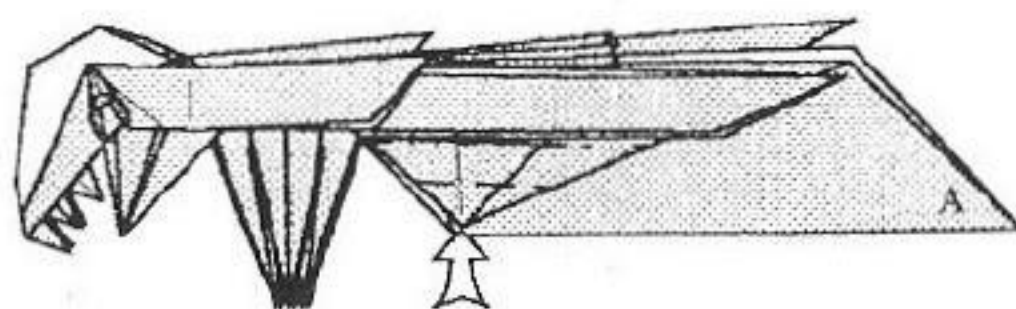
<105> もっとも広い部分から見て
1/3の幅で上下に沈め折り 2回



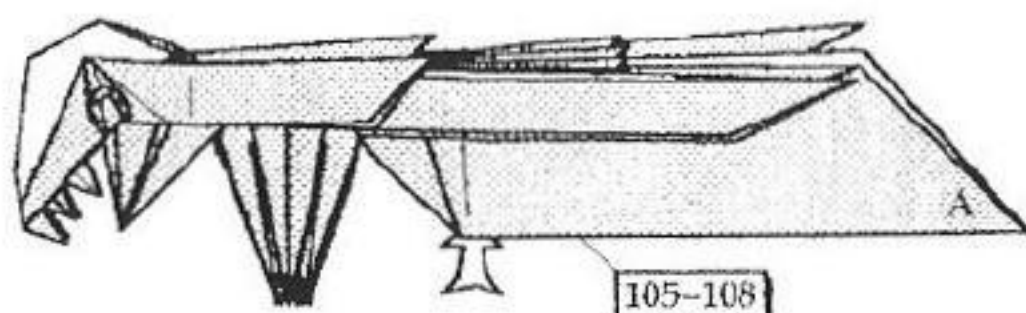
<106> つぎの角も上下に
沈め折り 2回



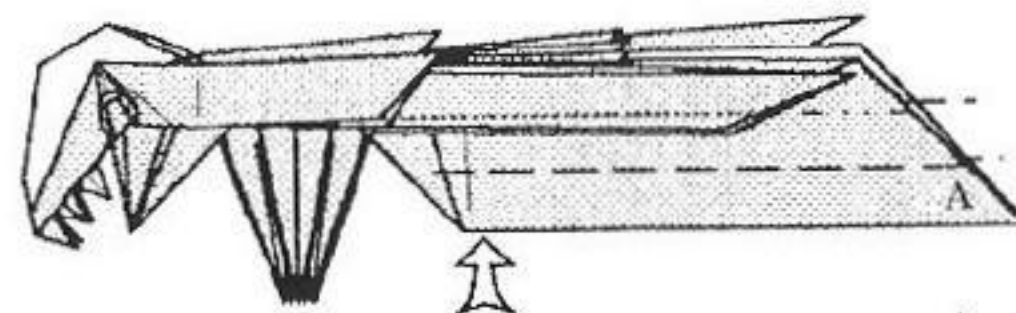
<107>つぎの角も上下に
沈め折り2回



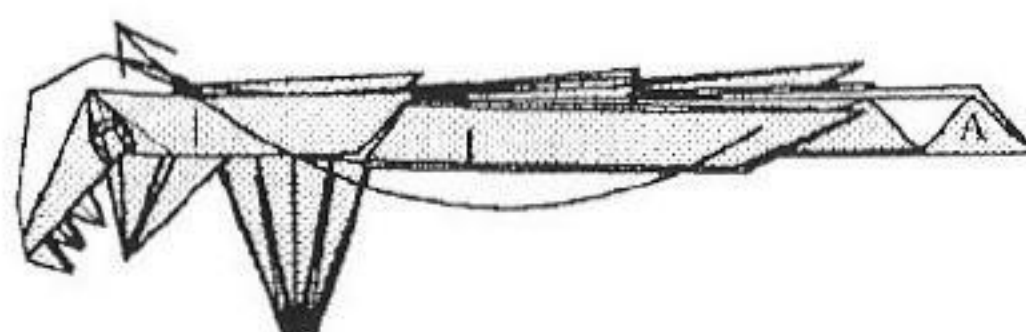
<108>つぎの角もまた
上下に沈め折り2回



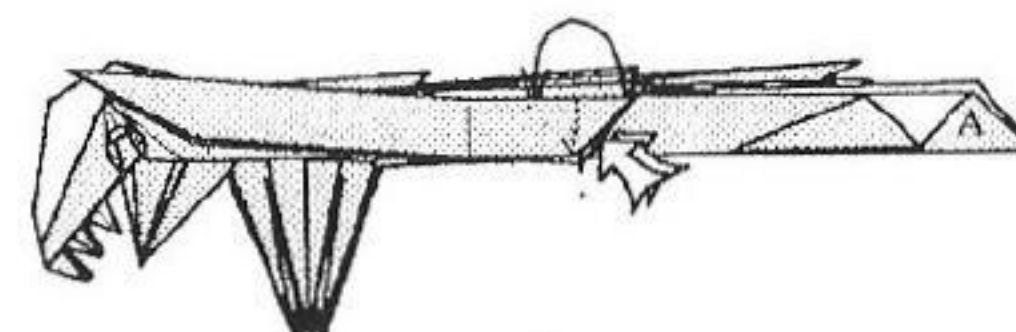
<109>裏面も<105>~<108>と同様



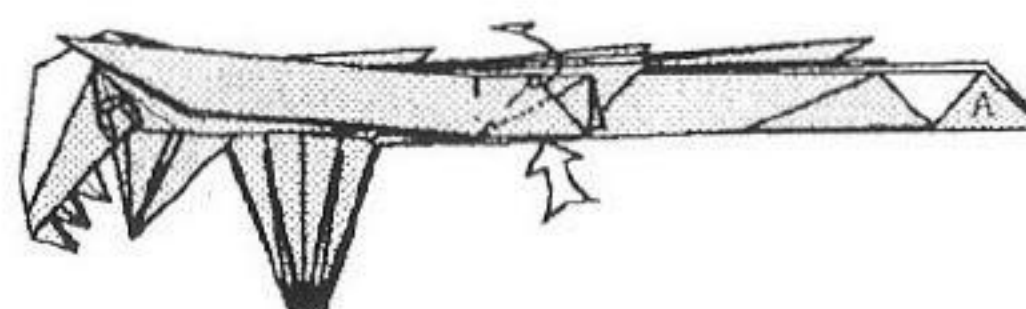
<110>上下に沈め折り2回



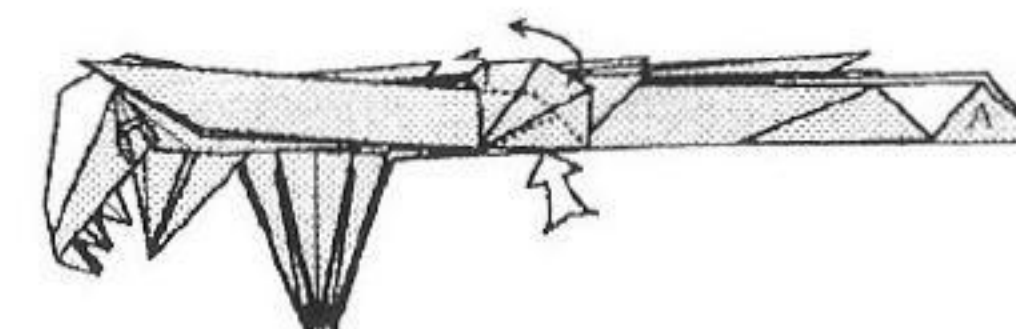
<111>長い角をひとつ左へたおす



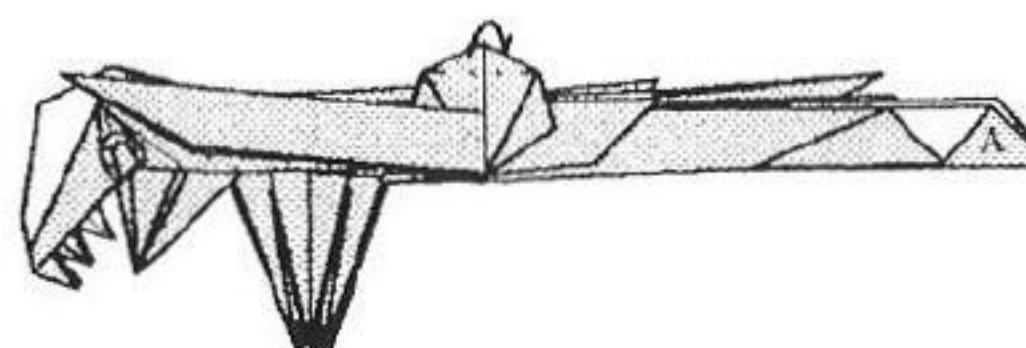
<112>なかわり折り



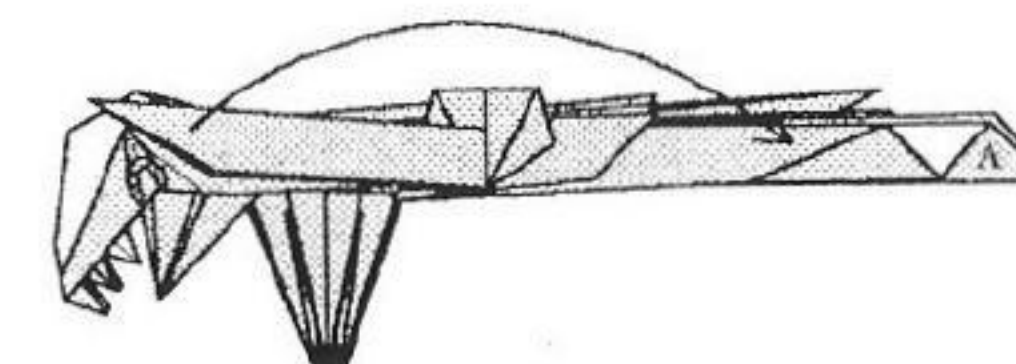
<113>なかわり折りして折り上げる



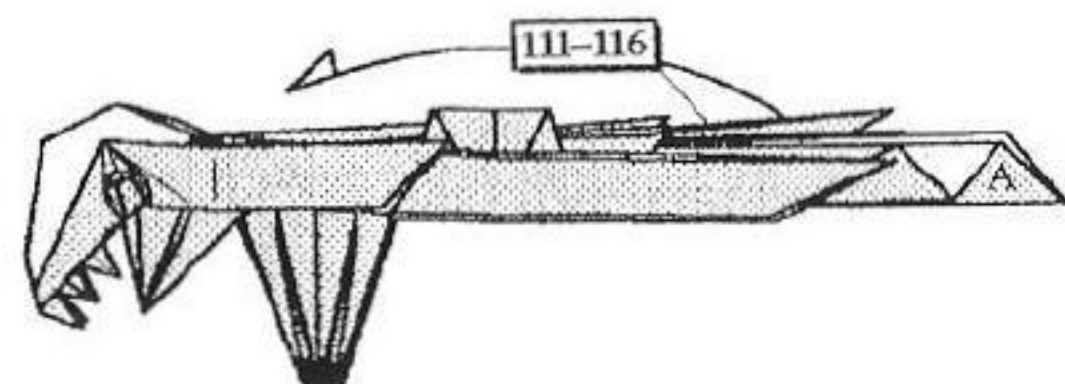
<114>左右対称になるまでひきよせる



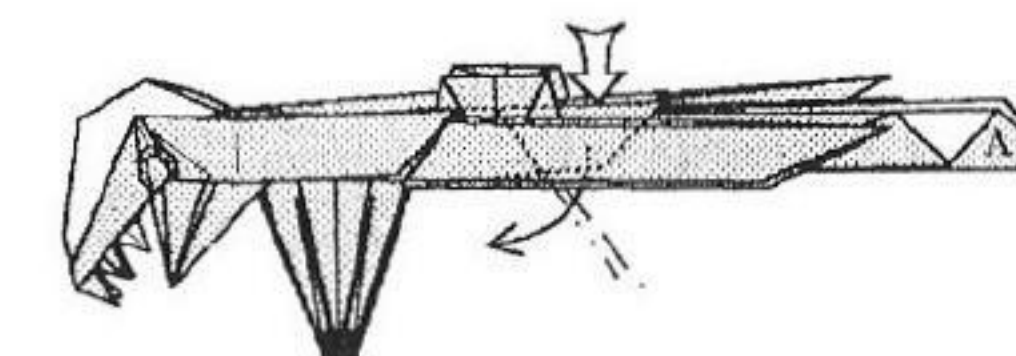
<115>上はしを山折り



<116>長い角を右へもどす



<117>裏面も<111>~<116>と同様



<118>角をひとつなかわり折り

次号いよいよ完結編！

そのシャルさんも今回はやや疲れ
ぎみ。それでも自らに鞭打ち頑張っ
ておられた。レンタカーに我々を積
み込むと、行きつけのお店に直行。
そこには海外からの参加者が集まっ
ていた。ヨーロッパで顔見知りもど

10日快晴。青柳さんの勧めで、ブルックリン・ブリッジを歩いて渡ることにする。初めて地下鉄に乗る。切符売り場には、コイン型の切符をお釣りだと思い込み、切符が手渡されるのを待つタローさんの姿があった。橋のたもとの市で山口都さんが買ってくれたりんごをみんなでかじりながら橋を渡る。山口さんの様子が変だ。中央の白線の上を漂うように歩いている。板でできた歩道には隙間があり、そこから下が見える。私は慣れるまで怖かった。山口さんは最後まで怖がっていた。他の面々は何ともないようだった。橋を渡り終わるとブルックリン島。川沿いのなが〜いベンチに座って、眼前に広がるマンハッタンのパノラマを眺めながらさくらんぼをつまむ。天気はいいし、のんびりできて最高の気分。昼食は今日も飲茶だ。あっ！布施さんがまたガムを踏んだ。(以下次号)



折り紙シンポジウム雑感

津田 良夫



今までシンポジウムとはまったく無縁だったのだが、今年はなんとか都合をつけて参加することができた。実際自分が参加し、日程をこなしていく過程でいろいろ疑問を感じた。部会や懇親会は、果たして必要なのだろうか。

私が唯一評価できると思ったのは、折紙市場だった。じっくり時間をかけて、興味ある作品を心ゆくまで折ることができる。そういう場が与えられるというのは、すばらしいことのように思った。折紙に関係したいろいろな雑談も楽しかった。ただ、夜を徹して雑談しながら、折ふけるための部屋が予め準備されていなかったのは残念だった。

NOA

折り紙シンポジウム

去る7月31日から8月2日の間恒例のNOA主催「折り紙シンポジウム」が福岡県二日市温泉で開催された。

今開催は初めて本州をはなれた会場となり、距離的なハンディが心配されたが、ハンディを感じさせない参加者の多さで興奮した3日間となった。九州初の開催ということもあって、かなり、今までになく多くの地元初参加者が加わった。

ジョンからのメッセージ

J. Montroll

It is always fun to visit Japan during the time of the NOA Symposium. I enjoyed meeting all my good friends there and spend days folding together in Fukuoka. I was surprised watching the teenage boys folding and creating complex origami.

モントロールさんと...

山口 圭

今年、モントロールさんは日本に来て私の家にとまり、シンポジウムにも一緒にきました。モントロールさんとシンポジウムに行くと、へやがちがったので、あまりあえなかったけど時々あうと「にこっ」としてくれました。わたしは、モントロールさんのえがおが大すきです。モントロールさんは、アメリカにすんでいるからしよっちゅう日本にこれないけど、またあえることがあったらあいたいです。



シンポジウム人物記

土戸 英二

関西若手オリガミアン土戸英二氏から見たシンポジウムの東西（世界？）オリガミアン図鑑です。

俺神 折郎

第一回大会から参加の地方のNOAの実力者。彼考案のキーボード折りは、人工物を折るための基礎となっている。若手の折り紙狂人を見つけると自分作品を教えたくなる性分があるが、近年は若手がよってこなくなり少し淋しい。

シンク ホールド

米国から毎年訪れるペーパーホルダー。妙な日本語と英語とのちゃんぽんでコミュニケーションをとる。お



for the home-stay during this two week vacation in Japan.

ばさんにサインを頼まれると、シンコ ホールデと書く（もちろん英語で）。

船場 つる

小さなことでもすぐに感動するおばさん。もらえるものなら創作途中の作品までもっていってしまう。

おりすじ つける
機條 埤

折り紙市場の常連で、「おりがみ」にもよく作品が載り「杉様」と呼ばれてる。子供を見ると代表作である「ぶんぶんまる」をあげるのを楽しみとしている。

谷山 弾

少し腹ので始めた若手の折り紙作家。折り紙設計法による難解な生き物を得意とする。彼のまわりには中高生の親衛隊が付きまとい寝不足に悩まされる。

中輪 小里

温泉と宴会とおしゃべりを目的として参加しているおばさん。「シンポジウムに参加すると云うと主人を納得させやすいのよ。カッコいいし。」とおっしゃっておられました。

かぶせ おり
歌舞瀬 雄瑠

俺神折郎の腰巾着。折り紙を折ることよりも人の噂話を聞くことを楽しんでいる。

まだまだ楽しい人達はいっぱいいますので、自分の目で探しにきたらおもしろいでしょう。

- 温度が3度ほど上昇したのではないのでしょうか。
- (あっよく考えたらこれが発行されるのは秋ですね(笑))
- ううんレポートか・・・頼まれたからにはことわれないなあ。



シンポジウム報告

田中 まさひこ

年々参加者数だけは増えているシンポジウム。参加者以外の人々の目にはどのように写っているのだろうか。

1日目

講演の後、まるで〇〇の群れのように旅館に移動。夜3時過ぎまで折っている人もいたらしい(わたしではありません)。

私かも知れない・・・(編)

2日目

部会と折紙市場の自由選択だったので、午前中は折り図記号研究会に、午後は折紙市場に参加した。もっと

沢山の部会が開かれ選択に困るほどになれば、活性化につながるのではないだろうか。市場には多くの出店があったが、その中には何も売らないつもりだという悪いやつが約1名ほどいたらしい。でもそこではモントロール氏も楽しんで(?)いたし、のぞみ愛児園長にも折り紙のご指導をさせていただいたし、許してやってください。

...それはあなたです!(編)

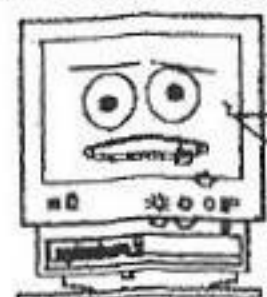
3日目

全体会。これは退屈。なんとかしてください。途中さぼってごめんなさい。

毎年毎年文句を言いながらも参加してしまうのは、やっぱり好きなんです。

私もさぼりました!!! (編)

◆折り紙シンポジウムのレポート◆ (新潟高校生のひとりごと)



岡嶋 航

筆者(母、描く)

暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い。今年ほんとに暑い!!!!!!あっ、今の一行で読んでいるみなさんの体感

(まだ学校のレポート2枚書いてない.....(泣))よし!気合い入れて書け!

じゃあ真面目に、まず会場が最初、保育短大というのがまずいんじゃないでしょうか。理由はホテルの会場が確保できなかったのか、それとも短期大学の学生が作った折り紙を見せたかったのかは知りませんが会場を2つに分けるのはちょっと・・・と思います。しかも大学までの道のりは厳しかったです。

あとは、ホテルの料理の味でしょうかね・・・私には味がしつこかった。

来年は長野になりそうですね、ああ近くてよかった。(新潟県民の本音)

マイケルさんが 病気だ!

ORIGAMI USAのマイケル・シャルさんが、大病を患っていて、闘病

生活を送っている。マイケルさんは、いつも絶やすことのない笑顔と、パフォーマンスで、私たちをリラックスさせてくれる心の優しい友だ。いつも全力で折り紙に向かう姿は、簡単にはまねができない。何年か前の広島の新潟シンポジウムのとき、フレンズのTシャツを何人の人に配っただろうか。しかしそれが彼のポケッ

トマネーだと知る人は少ない。そんな彼が病氣だ。何かしてあげたい。しかし、何をしてあげたらいいのかわからない。病床に折り紙作品が集まるのがいいのか、考えどころである。とりあえずお見舞い金を送ることとした。賛同して下さる方は一口3000円探偵団気付けで送って下さい。詳細は電話で(03)-5684-6040まで

おりすじ

作風ということ

田中稔憲

よく、山科節子さんと、どうして「人物を作るのか」と言う話をよくする。山科さんの言い方では「あまり作られていないから」ということになるのだが、私が聞きたいのは「あの独特の雰囲気はどこからくるのか」と言うことである。これはご本人から聞いたことなのだが、何年か前に金沢で私たちグループの作品展をしたときのこと。山科さんの友人の一人が会場に来て、「これが貴女の作品でしょう。すぐ分かった。」と言われたのだそうである。そうおっしゃった方は折紙についてはずぶの素人だそうである。私はこれはすごいことだなあと思う。例えばゴッホやルソーの絵は、それが見たことのない絵であったとしても、私たちはたいていなら画家の名前を言い当てることができる。その描き方に特徴があるからである。折紙作品については、あまりそんな話は聞かない。できた作品をどう飾るかという事ならあるかもしれないが、折図さえあれば、だれでも同じものを作り出せる「折紙」と言う造形分野の創作という過程でそれだけ強い個性を発揮するということは普通じゃできないと思うのである。これが天分ということだろうと思う。

ひるがえって自分はどんな作品を作ろうと考えているだろうか。現実にはなかなかそうならないのだが、理

想としては

(1)美しいこと(2)可愛らしいこと(3)折りやすいこと(そんなにステップが長くない)(4)適当に折りごたえがあること……を目標にしているつもりである。

対象の特徴を的確に捕らえ、単純化に成功したいと思う。実際はかなり実物とは違う形なのに見た目に「そっくり」と感じさせることができれば最高である。例えばその典型が自信作の朝顔である(と勝手に思っている)。他の作家の作品もみな特徴を捕らえていてそれぞれ納得できるが「そっくり」という印象を与えるのは私のものだけだろうと思う。

(実際にそう聞いたのだ!)しかし、実際の朝顔はあんなに花びらは反り返ってないし、かなり形も違う。それでもそっくりという印象を与えるのは私たちが頭の中に共通に持っているイメージを現実化できたからだと思う。そういった質の高い単純化に成功した作品を死ぬまでに3つでも4つでもできたらと考える。

そのためにはイメージを頭の中にしっかり作ることが必要で、それに何年もかかってしまうことが多い。(つまり才能もないし、頭もあまりよくない。)そこから個性が滲み出る作品なんてとても作れない。でも、やはり「造形」として勝負できる作品を作りたいと思うのである。

といった作品がぞくぞく登場。今回はそんな状況の中で生まれた昆虫がいくつも展示されます。

折紙探偵団定例会のお知らせ

次回の例会は、8月27日(土)と9月24日(土)です。

編集後記

・大幅に遅れてすいません。夏バテです。(S.N.)
・みなさん例会だけじゃなくて編集の手伝いにも来てね。(S.K.)

おりがみ戦士 山折あり太!

作. 生源寺志保
No.2 熱血の蝶勝負②



完

ギャラリー おりがみはうす

個展案内

おりがみ昆虫館

9月5日(月)~10月22日(土)

折紙探偵団のメンバーによる昆虫折り紙の作品展です。探偵団のメンバーが集い、語り合うと折り紙の作品もいきつくところまで行ってしまう。そんな感じさえるこの頃。

探偵団新聞24号でもその一端を紹介したように「ここまでやる!」

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫